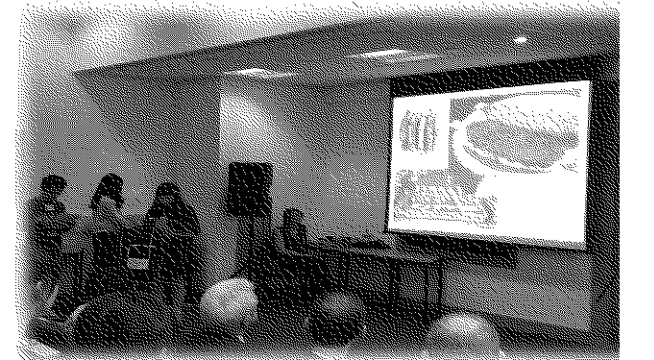


Golden Days Abroad Golden Days Abroad in Derbyshire

2016.3

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて～

第2回 ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書



目次

Page

| | |
|---------------------|----|
| ■はしがき | 2 |
| ■ダービーシャー派遣学生・受入家庭名簿 | 3 |
| ■派遣日程・研修日程 | 5 |
| ■ホストファミリー紹介 | 7 |
| ■滞在中の当番日記 | 20 |
| ■レポート | 35 |
| ■英語感想文 | 55 |

(Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English)

| | | |
|----------------------|---------------|----|
| ■派遣を終えて | 63 | |
| 派遣学生 | 間所 麻衣 | 62 |
| | 荻野 真帆 | 64 |
| | 後藤 香穂子 | 67 |
| | 安里 ヒトミ | 69 |
| | 梅村 美咲 | 70 |
| | 蓑島 裕太郎 | 72 |
| | 荒賀 篤哉 | 74 |
| | 鈴木 麻美 | 76 |
| | 永松 サユリ | 77 |
| | 松原 一真 | 79 |
| | 塩崎 可恵 | 82 |
| | 宮崎 紗菜 | 84 |
| | 大嶋 七海 | 86 |
| | 倉山 沙葵 | 87 |
| | 濱口 莉奈 | 89 |
| | 福島 沙菜 | 91 |
| 引率教諭 | 戸村 晴美 | 94 |
| | 中村 アレクサンダー 亮二 | 96 |
| ■豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料 | 99 | |

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年（平成元年）にトヨタ自動車株式会社が現地法人を南ダービーシャー市バーナストン地区に設立されたことを契機に交流を開始し、平成10年（1998年）11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、語学研修、バートン&サウスダービーシャーカレッジでの学校生活体験、現地学生たちとの交流、ホームステイ等を通じ、豊田市とダービーシャーの友好親善及びグローバルな視点をもった人材の育成を目指し、平成26年度（2014年度）に開始しました。2度目となった平成27年度の派遣事業でも、16名の市内の高校生徒が、約2週間に及ぶ派遣を無事に終え、英国ダービーシャーの様子や現地での異文化体験の記録を、本報告書にまとめました。少しでも多くの市民の皆様のお手に取っていただき、姉妹都市ダービーシャーの魅力や、姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

さて、2019年にはラグビーワールドカップが豊田市でも開催されます。豊田市を訪れる海外からの来訪者に「豊田市に行ってよかった」、「また豊田市に行ってみたい」と感じていただけるような都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆さんの国際的な感覚と行動力が不可欠です。最近では、海外留学に消極的であったり、海外旅行を敬遠したりという、若い世代の内向き志向が指摘されることがありますが、是非、この高校生派遣事業に対し、今後も多くの皆様に興味を持っていただき、ご参加いただけることを期待しております。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジ事務局、ホストファミリー、ダービーシャー地域住民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

派遣学生・受入家庭名簿

| 氏 名 | 勤務先・学校 (学年) | 受 入 家 庭 |
|---|------------------|------------------------|
| 派遣学生 間所 麻衣 MAI MADOKORO  | 豊田工業高等専門学校 2年 | The Washbrook Family |
| 派遣学生 荻野 真帆 MAHO OGINO  | 豊田西高等学校 2年 | The Smyth Family |
| 派遣学生 後藤 香穂子 KAHOKO GOTO  | 豊田東高等学校 2年 | The Kinnard Family |
| 派遣学生 安里 ヒトミ HITOMI AZATO  | 衣台高等学校 2年 | The Henchcliffe Family |
| 派遣学生 梅村 美咲 MISAKI UMEMURA  | 猿投農林高等学校 2年 | The Jenkins Family |
| 派遣学生 蓑島 裕太郎 YUTARO MINOSHIMA  | 松平高等学校 2年 | The Larkin Family |
| 派遣学生 荒賀 篤哉 ATSUYA ARAGA  | 豊田工業高等学校 2年 | The Denod Family |
| 派遣学生 鈴木 麻美 ASAMI SUZUKI  | 足助高等学校 2年 | The Jenkins Family |
| 派遣学生 永松 サユリ SAYURI NAGAMATSU  | 加茂丘高等学校 2年 | The Henchcliffe Family |

派遣学生・受入家庭名簿

| 氏名 | 勤務先・学校(学年) | 受入家庭 |
|--|----------------|------------------------|
| 派遣学生 松原 一真 KAZUMA MATSUBARA  | 豊田北高等学校 2年 | The Denod Family |
| 派遣学生 塩崎 可恵 KAE SHIOZAKI  | 豊田南高等学校 2年 | The Fitzpatrick Family |
| 派遣学生 宮崎 紗菜 SANA MIYAZAKI  | 豊田高等学校 2年 | The Washbrook Family |
| 派遣学生 大嶋 七海 NANAMI OSHIMA  | 豊野高等学校 2年 | The Sainsbury Family |
| 派遣学生 倉山 沙葵 SAKI KURAYAMA  | 杜若高等学校 1年 | The Sainsbury Family |
| 派遣学生 濱口 莉奈 RINA HAMAGUCHI  | 豊田大谷高等学校 2年 | The Kinnard Family |
| 派遣学生 福島 沙菜 SANA FUKUSHIMA  | 南山国際高等学校 2年 | The Carruthers Family |

引率教員・受入家庭名簿

| 氏名 | 勤務先・学校(学年) | 受入家庭 |
|---|------------|-------------------|
| 引率教員 戸村 晴美 HARUMI TOMURA  | 豊田南高等学校 | The Kumari Family |
| 引率教員 中村 アレクサンダー 亮二 NAKAMURA ALEXANDER RYOJI  | 衣台高等学校 | The Larkin Family |

派遣日程

| 月 日 | 時 間 | 活 動 内 容 |
|----------|--|---|
| 3月12日(土) | 7:50 9:00 11:30 15:30 16:25 16:35 | 中部国際空港 発(全日空第338便) 成田空港着 成田空港発(KLM オランダ航空第862便) アムステルダム国際空港 着 アムステルダム国際空港 発(KLM オランダ航空第1431便) バーミンガム国際空港 着 |
| 3月13日(日) | 終日 | ホストファミリーと過ごす |
| 3月14日(月) | 午前 午後 | オリエンテーション、キャンパスツアー バートン市街地ツアー |
| 3月15日(火) | 午前 午後 | 英語の入門講座/国立醸造博物館の見学 セントジョージズパーク見学 |
| 3月16日(水) | 終日 | クロムフォードミル見学(運河ボート乗船体験含む) |
| 3月17日(木) | 午前 午後 | 英国トヨタ自動車バーナストン工場見学 ロンドン日帰りツアー準備 |
| 3月18日(金) | 午前 午後 | 英国料理体験 アフタヌーンティー体験 |
| 3月19日(土) | 終日 | ロンドン日帰りツアー(大英博物館、国会議事堂、ビッグベン等) |
| 3月20日(日) | 終日 | ホストファミリーと過ごす |
| 3月21日(月) | 終日 | 南ダービシャー・ロズリントン林業センターでのスポーツ・野外活動 |
| 3月22日(火) | 午前 午後 | クリエイティブ・メディア・ワークショップ1 クリエイティブ・メディア・ワークショップ2 |
| 3月23日(水) | 午前 午後 | エキシビション&カルチャーショー準備 エキシビション&カルチャーショー準備 エキシビション&カルチャーショー |
| 3月24日(木) | 9:25 11:40 14:25 | バーミンガム空港 発(KLM オランダ航空第1422便) アムステルダム国際空港 着 アムステルダム国際空港 発(KLM オランダ航空第861便) |
| 3月25日(金) | 9:30 17:00 18:45 | 成田空港 着 成田空港 発(全日空第337便) 中部国際空港 着 |

研修日程

| | |
|-----------|--|
| 7月 1日(水) | 派遣生徒募集・選考 |
| ～8月31日(月) | |
| 9月25日(金) | 派遣生徒決定・通知 |
| 10月17日(土) | 第1回事前研修会(派遣日程・参加負担金・渡航説明等) |
| 11月 7日(土) | 語学研修(イギリス英語とアメリカ英語の違い、ホームステイ先でのコミュニケーションやエチケットなど)、旅行者からの渡航の説明等 |
| ～3月 5日(土) | |
| 3月10日(木) | 市長・市議会議長への出発挨拶、表敬訪問 |
| 4月 4日(月) | 市長・市議会議長への帰国報告、表敬訪問 |

ホストファミリー紹介



～ホストファミリーの紹介～

荒賀篤哉

僕はこの2週間、Shweta(シュウェッタ)さんファミリーにお世話になりました。
初めての海外で僕らの帰る場所を与えてくれて、いろんなことを教えてくれました。

[ファミリー構成]

Shweta さん (お母さん) Nitesh さん (お父さん) Nishika (娘さん、4歳)

お母さん(Shweta)は、料理上手でニシカととても仲がいい。ニシカとお母さんのやりとりを見て何回も笑顔をもらいました。

お父さんは、身体も大きく身長も高くて初めは“怖そうな”印象でしたが、実際はとても優しく、僕の不慣れた英語にも向き合って親身に聞いてくれ、言いたいこと・聞きたいことが伝わる喜びを感じました。

ニシカはすごく元気で周りの人に笑顔を与えてくれます。ニシカとは、かくれんぼをしたりソファで後転したり、身体を動かして遊ぶことが多くてハードだったけどとても楽しかったです。

お母さんが不在の時はお父さんがご飯を作ってくれて、ご飯が終わるとお皿洗い、食器の片付けを毎日やっていて家事もこなすイクメンでした。

お父さんには特別な力があるようで、ニシカが頭を机にぶつけてしまい泣いてしまうのですがお父さんがニシカを抱きしめて言葉(魔法)を送ると、すぐに泣き止みます。これはニシカの気持ちの切り替えの速さ故に起こっているのだと思います。

ホストファミリーとのかけがえ無い時間は一生の宝物になりました。

私がお世話になった Smyth 家は 4 人家族です。ホストファーザーの Eugene とホストマザーの Jean は共に BSDC で働いており、大学で生徒がよりよい環境で学習できるようサポートしています。彼は料理が得意で毎晩素敵な手料理を作ってくれました。Jean の趣味はガーデニングで、庭にはたくさんの花や植物がありました。Jean はとても優しい心の持ち主で、休日ショッピングに出かけてとき私たちは足の不自由なホームレスの方に会いました。Jean はその人に笑顔で話しかけに行き、お父さん用にと買っておいたドーナツを渡して、元気でね。と彼を励ましていました。また家では私が理解しやすいようにゆっくり話してくれ、よく寝られた？体調は大丈夫？といつも優しく気にかけてくれました。子供の Tom と Ellie は 2 人とも結婚していて、他の家に住んでいます。そしてこの家には韓国人の留学生の Honour がいます。彼女は 12 週間イギリスにホームステイしていて、韓国の大学では生物医学の工学技術を学んでいます。Honour はよく笑うとても優しい人で私にとってお姉さんのような存在でした。毎日バスでお互いの国の文化や言葉について話しました。Smyth ファミリーはとても仲が良く、ホームパーティーを開いた時にはみんなでダンスをしたり歌ったりしました。また毎晩みんなでダイニングに集まって紅茶を飲みながらドラマを見ました。私はその時間が大好きでした。2 週間 Smyth 家でホームステイすることができ本当に幸せでした。ありがとうございました。



私がホームステイした家庭はお母さんと息子の 2 人家族で、行った時はお母さんしか家にいませんでした。お母さんの名前はモニカで息子さんはアダムです。モニカさんはとても優しくて明るい方でした。初めて会ったときは私からは話をかけられなかったけど、モニカさんがなにかと話してくれてわかる範囲で答えていました。たまに、何を言ってるのかがわからなくてモニカさんも困っていたので少し申し訳なかったです。この時、もっと英語ができてたらなあとも思いました。モニカさんはほとんど自分の部屋にいたので食事のときくらいしか話をする機会ありませんでした。もっと話したかったです。私はモニカに抹茶のチョコ、小銭入れ、せんべい、ブラジルのコーヒーとチョコをあげて、息子さんにはストラップと日本の地図を絵で書いた小さい掛け軸をあげました。喜んでくれたのでよかったです！！（永松）



私たちは今回のホームステイで Monica Henchcliffe さんにお世話になりました。Monica さんは Lilly と Becky という猫を 2 匹飼っていて、Lilly は人懐っこく、Becky はずっと食べ物を狙っています。Monica さんは 2 匹の猫にとっても優しく、いつも猫たちに声を掛けていました。Monica さんは私たち以外にもホームステイの経験があり、その子たちの話もしてくれました。Monica さんはいつも私たちの事を気にかけていて、朝はいつも笑顔で "Good morning. How are you?" と聞いてくれました。学校へ行く時も "Have a nice day!!" と言ってくれて、帰宅する時も "what's did you do today?" と毎日聞いてくれました。

Monica さんは私たちに日本の文化とブラジルの文化について聞いてきてくれたりもしました。イギリス滞在最後の日には BSDC まで送ってくれました。イギリスに来て、分からなかったことはたくさんあったけど Monica さんがいろんな事を教えてくれたので楽しく過ごせる事ができました。13 日間とてもたのしかったです。（安里）



私たちがお世話になった Jenkins 家は BSDC から車で 20 分ほどの Burton という町の新築住宅で暮らしています。3 か月前に引っ越ししたばかりの家だったためとても綺麗で靴を脱ぐ習慣がついていたので自分の家のように快適に過ごすことができました。ひとりひとり用意してくれた部屋はどちらも可愛らしく、私たちが事前に貸してほしいとお願いしたドライヤーとヘアアイロンは古いからとわざわざ買い替えてくれました。

家族構成は、母：Jeffet 姉：Alicia 弟：Andrew 犬：sammie で姉の Alicia は医学生で大学に通っており、弟の Andrew は夜遅くまで仕事があり、犬の sammie は知人に預けられていたため、普段はホストマザーしか家にいませんでしたが、いつも笑顔でとても明るく優しく私たちを本当の子どものように可愛がってくれました。またホストマザーが作る料理は私たちの口に合っていてとても美味しかったです。

イギリスで子どもたちに空手を教えている先生であるホストマザーは日本の文化に興味を持ってきていて、数字を日本語でどのように言うかを教えて覚えようとしてくれたり、日本から持ってきたお土産を渡すと嬉しそうに喜んでくれたり、私たちが 2 人で作って振る舞った日本食のおにぎりとお味噌汁を美味しいと言って完食してくれたりしました。

とても楽しく充実した 2 週間を過ごすことができました。ペアが気の合う私たちだったのも楽しく幸せな時間を過ごすことができた理由の 1 つだと思います。Jenkins 家が私たちのホームステイを受け入れてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。関わってくれたすべての人へ「ありがとうございました」と伝えたいです。



私のホストファミリーは4人家族です。お母さんの louse はシステムコンサルタント をしています。イギリス国内の会社を訪問したり、プロジェクトを立ち上げたりしています。お父さんの Jim は、刑務官をしています。朝早く、夜は遅くに帰ってきます。時には犯罪者と戦うこともあるそうです。16歳の姉 Megan はセカンダリースクールにかよっていて、歌が好きで、いつもどこでも歌を歌っていて、とても、私に似ていて気が合います。彼女は、チャリティークラブにはいって、週末活動しています。また、今は、今年カレッジへの進学のためのテストがあるため、休んでいます。モデルや女優をしています。将来はファッションやメイクの道に進むそうです。8歳の弟の harry はプライマリースクールにかよっています。わたしたちをいつも笑わせてくれるフレンドリーな子です。フットボールクラブに入っていて、地域の代表に選ばれるくらい、良い選手です。平日は毎日練習し、土曜日は、試合をします。将来はプロを目指しています。また、おばあちゃんにも会いました。元看護師だそうで、とても親切にしてくれました。四人とも毎日忙しく、活動しています。親が子供をとても尊重していて、子供は、親を尊敬する関係なので、家事は基本お母さんですが、みんなで協力していて、笑顔の絶えない家族で、羨ましかったです。



私たちがお世話になったのは、Stephen 家という、おじいちゃんの Steve とおばあちゃんの Dorothy の家です。2人はとても仲がよく、お互い支え合っていてとても素敵な夫婦でした。初めて会った時、私たち2人を素敵な笑顔で迎えてくれました。

全てが初めてで、不安な気持ちを抱いていた私たちでしたが、2人の笑顔を見た瞬間不安な気持ちはどこかへ飛んでいってしまい、これから始まる「イギリスのお家」での生活に心がワクワクしました。家に着くとなんと、お部屋も一部屋ずつ用意されていて各部屋の説明やこの家で生活するにあたってのルールも丁寧に教えてくれました。



Steve はいつも元気いっぱい、ジョークを言って私たちを楽しませてくれました。また、Steve の作る料理はすごく美味しいものでした。Dorothy は仕事もして忙しい中、私たちの話を真剣に聞いてくれたり、色々な相談に乗ってくれました。そのときは、いつも優しい笑顔も一緒でした。私たちが何をしたいかわからなかったりしていると、その様子をすぐに理解してくれて声をかけてくれて、何度も救われました。一日一日がものすごく充実していて、あっというまの2週間でした。Steve と Dorothy のお家でホームステイさせていただき、本当に幸せでした。感謝してもしきれません。ありがとうございました。

僕は今回のホームステイで Larkin 家にお世話になりました。夫婦だけの家庭でしたが元々は息子二人との四大家族だったそうです。夫の Mike は口数があまり多い人ではありませんが突然歌い出したり、料理を作ってくれたり面白い人でした。また Mike はバイクが好きで自分の趣味の部屋を持っていてたくさんの工具とバイクが置いてありました。奥さんの Kulvinder さんは料理が得意でインドのスパイシーなカレーやオムレツを作ってくれました。またダンスが大好きでダンスパーティーに行った時はノリノリで踊っていました。二人は仕事で朝も遅く帰りも遅いので自分たちでトーストを食べたり、バナナを食べたりしていました休日にはショッピングモールやアウトレット、ピクニックなどいろんなところに連れて行ってもらいました。最終日二人とも朝早くに起きて僕たちを見送りしてくれました。本当の家族のように接してくれて、誕生日にはバースデーメッセージもくれて本当にいい人たちでした。また機会があれば会いに行きたいです。



私たちは、今回のホームステイで Kinnard 家にお世話になりました。Kinnard 家は、父：Andrew、母：Claire、長男：Oliver、長女：Maddy の 4 人と犬の Enya と Lily の 2 匹で暮らしている家族でとても明るく、親切な方たちでした。

ホームステイ先は、BSDC から徒歩 20 分程度の場所にある 1864 年に建てられた建物を自分たちでリメイクを施したレンガ造りの三階建ての素敵なお家でした。私たちに用意された部屋のベットには、さりげなくウサギのチョコレートが置いてありホストファミリーの温かさに触れることができ不安や緊張が一瞬のうちに消えました。

2 週間の生活の中でホストファミリーは、日本に興味を持って下さり朝起きたら「おはよう〇〇さん」食事のとき「いただきます」と日本語であいさつを交わしてくれました。また、日本の文化を紹介した際には、みんなで折り紙を楽しみました。とても上手に折り紙を折り、私たちは驚きました。

ホストファミリーは、人との繋がりを大切にされていて、たくさんの友達や離れて暮らす子供たちが家に遊びに来ました。また親戚のお家に遊びに連れて行ってくれたりもしました。2 週間という短い間でしたがたくさんの人と触れ合うことができました。思いやりにあふれた陽気で明るいホストファミリーと過ごすことができとても楽しく幸せでした。

♡ Thank you ♡



私がお世話になったホームステイ先は Fitzpatrick 家です。家族構成は、父 Paul、母 Fay、長男 Liam、次男 Tom、三男 Dan、養子の長女 Shernia、長男 Rylee と犬の Charlie です。Liam、Tom、Dan の三人は家から少し離れたところでそれぞれ暮らしていました。私が主に関わったのはお父さん、お母さん、養子の Shernia、Rylee でした。お父さんはとても優しく、冗談がいつも面白かったです。トヨタの工場見学に行ったときは職場の人からコメディアンと呼ばれていました。“Thankyou”と私が言うといういつも日本語で“問題ない”と返してくれました。お母さんの作る料理は毎日とてもおいしかったです。イギリスの伝統的な料理や、日本人に合う料理を作ってくれました。イギリス風の焼きそばを作ってくれた日もありました。毎日の夜ご飯が楽しみでした。Shernia と Rylee はすごく明るくとても元気のいい子供でした。二人はとっても仲良く、遊ぶ時は私も一緒に遊びました。二人とも音楽が好きで車に乗っている移動時間に音楽が流れるとノリノリで歌っていました。息子の Liam と Dan は家に来てくれて少しだけ話すことができました。Fitzpatrick 家はとても親切で快く私を受け入れてくれたのでとても居心地がよかったです。あまりうまく英語が話せない私にゆっくりと話してくれたり、簡単な単語を使って話してくれました。家族と過ごした時間はとても大切な思い出になりました。そして、もっとコミュニケーションをとれるよう、英語を上達させたいと思いました。とても楽しく、充実した2週間はあっという間に過ぎてしまい、家を離れるときには号泣してしまいました。Fitzpatrick 家にホームステイができた私はとても幸せ者でした。また機会があったら会いたいです。本当にありがとうございました。

ホストファミリー

InstaMag





・ Mrs. Gail (母)

いつもゲイルさんはお仕事が忙しく、私が学校に行くよりも早く仕事にいつてしまいます。最初に会ったのはこのゲイルさんでした。ゲイルさんはパサパサしている性格ですが、本当に明るなお母さんです。朝ごはんは私より先に仕事に行ってしまう関係で私が一人でシリアルを食べていたのですが、夜ご飯は毎晩作ってくれました。よくイギリスというご飯があまりおいしくないという耳にするため、行く前は本当においしくないのだろうかという不安がありましたが、いざ食べてみると美味しく少し驚いてしまいました。ゲイルさんが料理上手というのがあります。また、私のホームステイ初日にスーパーと一緒に買い物に行った際に私がチョコレートが本当に好きだということを伝えたらよくチョコレートのカップケーキやホールケーキを焼いてくれました。日本にいる私の家族は私以外あまり甘い物を好まない為甘い物を作ってくれる機会はほとんどないのでとても嬉しかったです。

・ Mr. Trever (父)

トレイバーさんは優しいお父さんです。いつも私が大学から帰ってくると「今日はどうだった?」、「元気にしていた?」などいつも私を気遣ってくれました。食後はよくゲイルさんとトレイバーさんと三人でテレビを見ながらいろんな話をしました。ドラマやコメディなどいろんな物を見ましたが、三人でテレビを見ながら回らんするあの時間はイギリス滞在期間の中でもとてもリラックスできて、大好きな時間でした。また、テレビを見ている間によくトレイバーさんはミルクティーを作ってくれました。ほんのり甘くて安心できる優しい味でした。どれも恋しい味です。

・Aaron（息子）

アーロンはドライバーさん達の三人いる子供の中で唯一の息子で一番年下です。今は21歳で工場勤めをしています。最初は見た目は少し怖かったのでどう接したらよいものと悩みに悩んでいました。でも頻度は少ないもののアーロンは私にいろんなことを聞いてくれたり、ホストファミリーと連絡をとるためにSIMカードを頑張って調べてくれたりしてくれました。（SIMカードは結局作動しませんでした）ゲイルさんに対しても本当に優しく、母親思いのいいお兄ちゃんだなとつくづく思っていました。

最初にホストファミリーとして割り振られたのは70代の女性のお宅でしたが、バートン校到着当日に体調を崩されてしまい、新たなホストファミリーが決まるまで最初の週末2日間をホテルに滞在しました。月曜日に新たなファミリーに紹介されました。Ramesh は20代でインドから英国にやってきた50代の女性で、インド人コミュニティーの交際でとても忙しくしています。インドのメロドラマが大好きで、数え切れないほどのサリーを持っています。ご主人の Panmish はロールスロイス社に勤務し、夜勤があるので挨拶くらいしかできませんでしたが、テレビでクリケットの試合を観ながらルールを解説してくれる優しい人でした。息子2人は独立して空いている部屋をバートン校の生徒に貸しているようです。お宅はヒンズー教寺院やイスラムモスクを抜けたダービー市の住宅地にあります。朝7時に家を出て、バスに乗り、ダービー中心街でバートン行きのバスに乗り換えて、8時10分に到着します。Ramesh は派遣団男子2人のステイ先である、Shweta の叔母であり、中村先生と男子生徒1人のホストマザー Kulvinder の友人なので、彼らとともに週末など一緒に行動しました。夕飯には Ramesh がカレーを作り、私と韓国からの留学生 Sophie でサラダとフルーツを準備して3人で食べたのがよい思い出です。日本食では肉じゃが(鶏肉使用)、卵焼き、ほうれん草の胡麻和え、若布の酢の物を作りましたが、ほとんどの材料はスーパーで手に入ります。胡麻は Ramesh がエスニック食材店で調達してくれました。以前の留学生が残っていた「粉末だしのもと」を利用してなんとかなりました。



滞在中の当番日記

1日目：3月12日（土）

3月12日、5時30分 神田公園に集合。不安と期待を胸に、眠さをも忘れていました。中部国際空港に着くと、突然のホストファミリーの変更もあり不安そうな人もいたが無事に成田空港へ到着。出国手続きを終えてアムステルダム空港へ。フライト時間は約11時間と約半日、空の上で過ごしました。酔い止めをしっかりと飲んで挑んだフライトも離着陸でしかさほど揺れることも無く、寝るもよし、映画を見るもよしと皆様々なことをして過ごしていました。僕はワクワク・ドキドキで行きは寝ることができませんでした。運がいいことに座席は後ろが壁だったのでシートが一番下まで下げて、大好きなワイルドスピード (Sky Mission) を見ながらロンドンに走る車のことを想像して過ごしました。

アムステルダム空港に着きバーミンガム空港からバートン空港まで約1時間のフライト。バートンに着くと BSDC のサラ (Sarah Drew) さんが出迎えてくれて、BSDC のバスに乗り込み高校へ。まず驚いたのは見渡す限り外車ばかりなことと二階建てのバスが普通に道路を走っていました。ほかには、信号が全部縦に付いていました。あと、使い捨てマスクの使用者が圧倒的にイギリスは少なかったです。日本では、風邪・花粉・インフルエンザの予防などのためにたくさんの方がマスクをしていますがイギリスで付けているのは、医療関係の人のみのようでした。

高校に着き、ホストファミリーの待つ部屋へ重たいスーツケースと長旅で疲れた体を引きずりながら向かいました。そのあと、ホストファミリーとの対面・お宅訪問。

インド料理 (チキンカレー) をいただき自己紹介をして長かった一日の幕が閉じました。(荒賀)



2日目：3月13日（日）

イギリスに到着して初めての朝を迎えました。特に時差ボケもなく、朝8時頃に目を覚ましました。ホストファミリーは日曜日ということもあってか、10時頃起床されました。

ホストファミリーとの初めてのブランチは、イギリスの一般的な朝食でした。ハッシュドポテト、トマト、目玉焼き、トースト、マッシュルーム、豆、バナナジュース。

この日は娘の Nishika の誕生日だったため、ホストファミリーは、ブランチ後誕生日パーティーに出かけていきました。Walia 家が外出している間、荒賀君と近所のスーパーに買い物に行きました。イギリスのスーパーは、カートを使用するときに小銭が必要で、初日はまだ小銭を持っていなかったため、カートは使用しませんでした。その他には、日本のスーパーと変わったところは感じませんでした。

ホストファミリーは2時間ほどで帰宅し、その後、「Intu Derby」というショッピングモールと一緒に出かけました。そこで Walia 家の親せきとそこにホームステイしている韓国人2人と、派遣団の義島君のホストファミリーと合流し、レストランで夕食を食べました。そこには、イギリス人、インド人、韓国人、日本人が集まりましたが、コミュニケーションはすべて英語でした。

Walia 家と義島君のホストファミリーとは友達だったようで、夕食後はみんな Walia 家に行ってイングリッシュティーを飲みながら映画を見ました。(松原)



3日目：3月14日（月）

今日はBSDC で初めての授業でした。大学へはタクシーを使って行きました。途中放牧されている羊や火力発電所を見ました。イギリスの火力発電所は変わった形をしていて、とても大きくかったです。大学は明るい雰囲気です。プロジェクターやパソコンなどがたくさんありました。外から見ると学生は You tube を見ていたり座学よりも実践が多そうでした。授業では簡単な英語を使ってのコミュニケーションを学びました。年齢や職業、どこに住んでいるかいるかなど誰にでも聞けるような質問ばかりで、ホストファミリーや現地の学生と話す時に使ってみようと思いました。昼食は大学の食堂で大学生と一緒に食べました。大学の昼食はメイン以外は自分の好みの量に調整できてお腹いっぱいになりました。

午後はバートン市を大学生に案内してもらいました。大学の近くの公園には図書館と第一次、第二次世界対戦の慰霊碑がありました。また鳩や鴨、ハクチョウなどの鳥類がたくさんいました。ショッピングモールにはワンポンドショップやドラッグストア、スポーツ用品店がありそこで NIKE のパーカーを買いました。

夜ご飯は奥さんの kulvinder さんが本場のカレーとチャパティを作ってくれました。私たちのために少しスパイスを減らしてくれたそうですが、とても美味しく三杯もおかわりしました。食事の後は Mike と中村先生とお客さんとジェンガゲームを楽しみました。（蓑島）



4日目：3月15日（火）

午前は BSDC で英語の授業を受けました。文の最後は上げるとか、自分の家族構成を英語で紹介したり、ちょっとしたゲームもしたりして 2 時間くらいの授業だったけど楽しく授業をすることができました。

午後は学校のバスで国立醸造博物館とセントジョージズパークへ見学に行きました。

国立醸造博物館では昔の人たちがどうやってビールを作ってたのかの話を知りました。当たり前だけど、説明は全部英語だったのでところどころ、わかる単語を聞いてから組み合わせて文章を作ってそれを頭の中で日本語にしてたので理解するのに時間がかかってとても大変でした。昼食は国立醸造博物館にあるレストランでハム&チーズのサンドイッチを食べました。とてもおいしかったです。

国立醸造博物館のあとはセントジョージズパークというところへ行きました。ここはサッカーに関する施設で、施設内にはイギリス代表のサッカーチームがトレーニングできるジムや室内でサッカーをするところもありました。壁一面にデビット・ベッカムや他にもいろんなサッカー選手のサインがあるとこがあつてすごかったです。あと、練習していたサッカー選手と写真も撮るところができて充実した1日を過ごすことができましたのでよかったです。（永松）



5日目：3月16日（水）

今日はBSDCからバスで45分ほどのところにあるクロムフォードミルに見学に行きました。クロムフォードミルは世界初の水力による紡績工場の産業遺産で、世界遺産に指定されています。午前中はガイドの方から当時の技術を学び、建物や街を歩いて見学しました。この日はイギリス派遣の中でも1番とっていいほどかなり寒かったです。お昼はみんなでサンドイッチやケーキ、果物を食べ、温かい飲み物を飲んで暖まりました。午後からは産業革命のときに物資運搬のために使われた運河でボート乗船を体験しました。私たちが乗ったカナルボートと呼ばれるボートはデザインがすごくかわいらしく、中には机やいすがついていて、座って窓から外を見ながら2時間ほどゆったりとイギリスの大自然を堪能できました。そのあと、またバスでBSDCまで帰ってホストマザーが迎えに来てくれて車で帰宅しました。用意してくれた夕食がスパイシーで食べられなかった私に、ホストマザーがほかに食べられるものを作ってくれてその優しさに感動しました。（鈴木）



6日目：3月17日（木）

今日はイギリスにあるトヨタ自動車の工場見学に行きました。BSDC よりバスで約 15 分の近さにあり、周りは自然に囲まれていました。TOYOTA のイギリス工場では、環境との調和を重視していて、エネルギー削減や、自然エネルギーの利用などに力をいれるなど、色々な工夫を凝らし、生態系を守っている事が分かり、工場の周りが自然豊かなのが納得いきました。また、若者の育成にも力を入れていて、豊田市にもある、トヨタ学園のような学校もあることを聞きました。中小企業の若者を受け入れ、育ててまた、中小企業に帰すという、他の工場の育成にも、取り組んでいるようです。大人だけでなく、日本でいう、保育園に通うような小さな子どもには、楽しく車作りに興味をもってもらえるような、ワークショップや、体験できる施設まで揃っていました。

昼食は、TOYOTA の学校に通っている生徒と共に食事をしました。みんなフレンドリーで、話が弾みとても盛り上がりました。私もエンジニアになるつもりなので将来共に仕事ができるといいです。その後、工場見学をしました。工場の中の様子はほとんど、日本と変わりありませんでしたし、ちらほら日本人が見られました。各チームに日本人が一人付いているそうです。地元の会社なので、すごく豊田市民として TOYOTA の車をイギリスで見かけると誇らしく思いました。しかし、沢山とは言いきれないので、もっともっと普及するといいなと思いました。未来の仲間もしくはライバルと出会うことができ、いい思い出になりました。（問所）



7日目：3月18日（金）

18日はBSDCで、料理体験とアフタヌーンティー体験をしました。学内にレストランのようなお部屋があり、驚きました。色々な施設が充実していて生徒たちがのびのびと成長していける学校であることが、うらやましく思いました。

私たちは8人ずつ、料理を作るチームとテーブルのセッティングをするチームにそれぞれわかれしました。わたしたちは初めに料理を作ることになりました。エプロンを着て手を洗った後、一人一人にBSDCの調理専攻の生徒がついてくれて、一緒に料理をしました。私は、サンドウィッチを作る担当でした。やることは簡単でしたが、付き添いの生徒の英語が速すぎて、上手く話せなかったことを覚えています。

後半は、テーブルセッティングでした。紅茶の味を確認したりナイフやフォークの並べ方、ナプキンのおしゃれなたたみ方などを教えてもらいました。料理をならべてすべての準備を整え終わると、BSDCの生徒たちと一緒に作った料理を食べました。食事をしながら、好きな食べ物の話などをしました。食事が終わると今度は、派遣団のメンバーが日本食についての紹介をしました。

BSDCの生徒たちはみんな熱心に耳を傾けてくれて、とても興味を持ってくれているようでした。この日はイギリスと日本の食を通じて、良い文化交流が出来たと思います。（倉山、大嶋）



8日目：3月19日（土）

この日は、ロンドンに日帰りツアーへ行きました。まず始めに BSDC から約 3 時間かけて大英博物館へ行きました。

大英博物館では、2 時間近く時間がありました。私は、日本についてのコーナーを見て回りました。銅鐸や鎧など、教科書でしか見たことのないような作品がたくさんあってとても感動しました。他にもミイラのようなものや骨がたくさんあって少し怖かったけど、楽しかったです。

次に地下鉄に乗ってビッグベンに向かいました。地下鉄ではスリにあうことが多いと聞いていたので心配していましたが、実際は現地の先生や同行の先生などが必ず周りにいたので安心して電車に乗ることができました。ビッグベンはとても大きくて驚きました。近くの広場で時間を取ってもらえたのでたくさん写真を撮ることができました。バッキンガム宮殿までの道も、友達とロンドンの街並みを楽しみました。思ったよりもたくさん 2 階建てバスを見ることができました。バッキンガム宮殿にはたくさんの観光客がいました。宮殿のてっぺんに国旗があがっていたのでとても不思議に思っていると先生はエリザベス女王がいるときは旗があげられること教えてくれました。それを知ってとても驚きました。

次にハロッズへ行きました。ハロッズでは 1 時間買い物をしました。とても短く感じました。兵隊の格好をしたクマのぬいぐるみなどたくさん土産を買うことができました。

写真でしか見たことのないような光景を実際に見ることができてとても感動しました。旅行でも来てみたいなと思いました。

（濱口）



9日目：3月20日（日）

今日の朝は、昨日がロンドン観光ということもあってゆっくり寝ました。10時ぐらいから車に乗って朝マックに連れて行ってもらいました。メニューは日本とほとんど変わらなかったです。そのあとは車で二時間かけてアウトレットに連れて行ってもらいました。そこで、お土産や財布、服など好きなものを買いました。昼は喫茶店に入ってサーモンのサンドイッチを食べました。ホストファザーが気を使ってくれて味噌汁を買ってきてくれました。久しぶりの日本食だったのでとってもおいしく感じました。買い物の後はシェイクスピアに行きました。建物が少し歪んでいるところや家の高さ、造りなどから歴史を感じることが出来ました。平日はホストファミリーの子供と少しの時間しか関わることができなかったのですが、今日は一日中一緒にいれてとても楽しかったです。（塩崎）



前日の夜に今日何するの？と聞くのを忘れてベッドに入ってしまった私は大学がある平日の朝と同じように6時半に起きました。その日はバートンでは珍しい晴天で気温も比較的暖かい日でした。日曜日ということもあって、お仕事がなく、ママもお兄ちゃんもなかなか起きてきませんでした。いつもは私より早く家を出てしまいます。8時ぐらいになると、ママが起きてきて今日ご飯を外に食べに行こうと言われてました。それを聞いて、ご飯だけ？と私は思いました。他の友達にホストファミリーにモールやビルドベアに連れていってもらっているのに、私は1日家に居るのかなと少し悲しくなりました。実際昼すぎになっても、私だけずっとリビングのテレビで料理バトルの番組を見ているだけでした。いつも学校から帰ると、ママとパパと3人でドラマやバラエティー番組を見るのが私のイギリスに来てからの日課でした。ニュースを見ながらその内容についてみんなで語ることもありました。私の1番好きな時間でもありました。でもその日はママもパパもお兄ちゃんもリビングにはあまりいませんでした。この調子では日記に書く内容があまりにもないと心配になりました。すると、ママの娘さん(結婚して他の所に今住んでいる)がお家に遊びにきました。ママの娘さんはホームステイ初日に1度会ったことがあって、とても明るくにぎやかな人です。はじめて会った日もたくさん話しかけてくれました。娘さんが新しくタトゥーを入れたようで、その話やたわいもない話をみんなでしました。私は兄妹がいないので、こういうにぎやかな家庭にはすごく憧れがあります。だからこの家族は私の理想の家族像です。お兄ちゃんが娘さんの車を洗っている間に、ママとパパと一緒にスーパーに行こうと私を誘ってくれました。最初は2人で行くのかなと思っていたのですが、さなもだよ！と誘ってくれました。本当に嬉しかったです。

車でBSDCの近くにあるスーパーに向かいました。そのスーパーは大学の帰りに何度も友達と遊びにいった所なのですぐわかりました。時間でいうと2時すぎぐらいで、お昼ご飯を食べてなかったのも本当にお腹が空いていました。そんな時にパパとママが中華バイキングのお店に連れていってくれました。バイキングといってもお値段も比較的高くはなくて、チェーン店だと言っていました。中は至って混みあっていて、パパの友達にも何組か遭遇しました。ご飯はどれもこれも美味しく、中華料理ということもあって久しぶりにお箸を使いました。毎日フォークとナイフの生活だったので、お箸を見て嬉しくなっていました。野菜が使われた料理もたくさんあったので、久しぶりにたくさん野菜を食べました。ママとパパと色々な話をしながらご飯を食べていると、隣のテーブルの近くで店員さんが足を滑らせてグラスを数個割ってしまいました。隣のテーブルの人は激しく怒りだし、とうとうお金も払わずに店を出てしまいました。それを見て、パパとママは事故だからしょうがないのにねと口を合わせて言っていました。パパは店員さんにも、アクシデントはつきものだからと声をかけていました。それを見て、この人達がホストファミリーで本当によかったなと思いました。私もバイト先でワイングラスを10個近く客の前で落としてしまったことがあり、店長には激しく叱られました。さすがに客がお金を払わずに店を出ていくことはありませんでしたが、私自身すごく落ち込みました。なのであの店員さんの気持ち痛みが痛いほどわかります。私は本当にこの家族が大好きです。でもこの日を機に更に好きになった気がします。

家に帰ったあとは2本映画を見ました。お兄ちゃんのおすすめを見たのですが、どちらも本当に面白かったです。パパはいつも私にミルクティーを作ってくれるのですが、その日もまたいつ

ものように作ってくれました。パパのミルクティーは最高です。その日はお昼ご飯が遅く、バイクキングだったのもあって夜ご飯は食べなかったのですが、ママのご飯もいつも最高です。この日も本当に楽しい1日でした。(福島)



10日目：3月21日（月）

今日は、ロズリントン林業センターで野外活動を行いました。そこにはたくさんのBSDCの生徒がおり、僕達派遣団の皆とフットボールやサイクリング、そしてフィジカルトレーニングを行いました。

フットボールでは、パス練習や芝生を広く使って試合をしました。BSDCの生徒達は、そこでやり慣れていることもあるからなのか、ドリブルやパスを出すのがとても上手でした。自分もつい楽しくなって、本気でプレーしました。終わった後に「上手だったよ。ありがとう。」と褒めてくださいました。また一緒にフットボールがしたいと思えるような時間を過ごすことが出来ました。

次にフィジカルトレーニングでは、大きい円を作ってしっぽ取りをしたり、筋肉トレーニングをしました。この日は、とても寒かったのにも関わらず、BSDCの生徒達は、半袖で活動をしていてとても驚きました。しかし、僕も運動しているうちに暑くなってきたので途中から半袖になりました。そのくらいメニューがハードでまるで学校で行っている部活動のようでした。

最後にサイクリングをしました。マウンテンバイクに乗って林業センター周辺のサイクリングコースをまわるといふものでした。人生で初めてマウンテンバイクに乗ったので、最初は慣れるのに苦労しましたが時間が経つにつれて楽しく感じました。

全ての活動が終わった後は、皆で記念撮影を撮り良い思い出作りが出来ました。(松原)



11日目：3月22日(火)

今日はクリエイティブメディアワークショップという学習で Kiran Moorley 先生の元、肖像画の書き方と顔の彫刻の2班に分かれて学習しました。私は肖像画の書き方を学びました。まず2人1組になって相手の子の顔を描きます。私はBSDCの生徒の人とペアになりました。始めに鉛筆の持ち方だけを学んでから描きました。輪郭や目の形を描くのが難しく苦労しました。次に先生に肖像画を描くコツを聞いてから描きました。目や鼻の比率を考えて書くと先ほどとは見違えるような絵が完成し、ペアの子も喜んでくれました。次は版画を行いました。インクを板に塗って、その上に画用紙と写真を置き、鉛筆でなぞる方法で作りました。インクが多すぎると黒くなり過ぎてしまい、インクが少なすぎるとうまく写らないのでとても難しかったです。最後にはペアの子と協力して納得のいく作品を仕上げることができました。自分で色紙をちぎって貼り、完成させた画用紙にも版画を刷り、独特な雰囲気の商品が出来上がりました。BSDCのペアの子と仲良くなって連絡先も交換することができ、言葉を交わすだけでなく絵を描くということを通じて仲良くなることができるととても嬉しかったです。日本に帰っても交友関係が続けたいです。お

昼は BSDC の生徒と一緒に学食を食べました。趣味やお気に入りの音楽、オススメの店など英語の会話が飛び交い楽しい昼食となりました。(荻野)



12日目：3月23日(水)

今日はお世話になった BSDC 最後の日で、英語で発表するカルチャーショーがありました。皆が一番緊張したのはこの日だと思います。

各グループで発表内容と順番を決め、練習を何回も繰り返しました。分からない発音があれば先生に聞き、各自で読む練習をしました。各グループの練習が終わればショッピングへ行くこともできました。私のグループは練習が順調だったので皆で COSTA に行き 5 人で話しました。イギリスに着いてグループでちゃんと集まって話すのは初めてだったので楽しかったです。昼食後も各自で練習をし、皆でリハーサルもしました。

いよいよ、カルチャーショー本番です。どのグループもしっかり発表する事ができました。3 分クッキングやソーラン節が披露され会場は盛り上がりました。その後、BSDC でホストファミリーと最後の夕食をしました。

会場には今まで撮った写真が飾られて全部懐かしく思いました。

イギリスにいた2週間はとても楽しく一生残る思い出です。(安里)

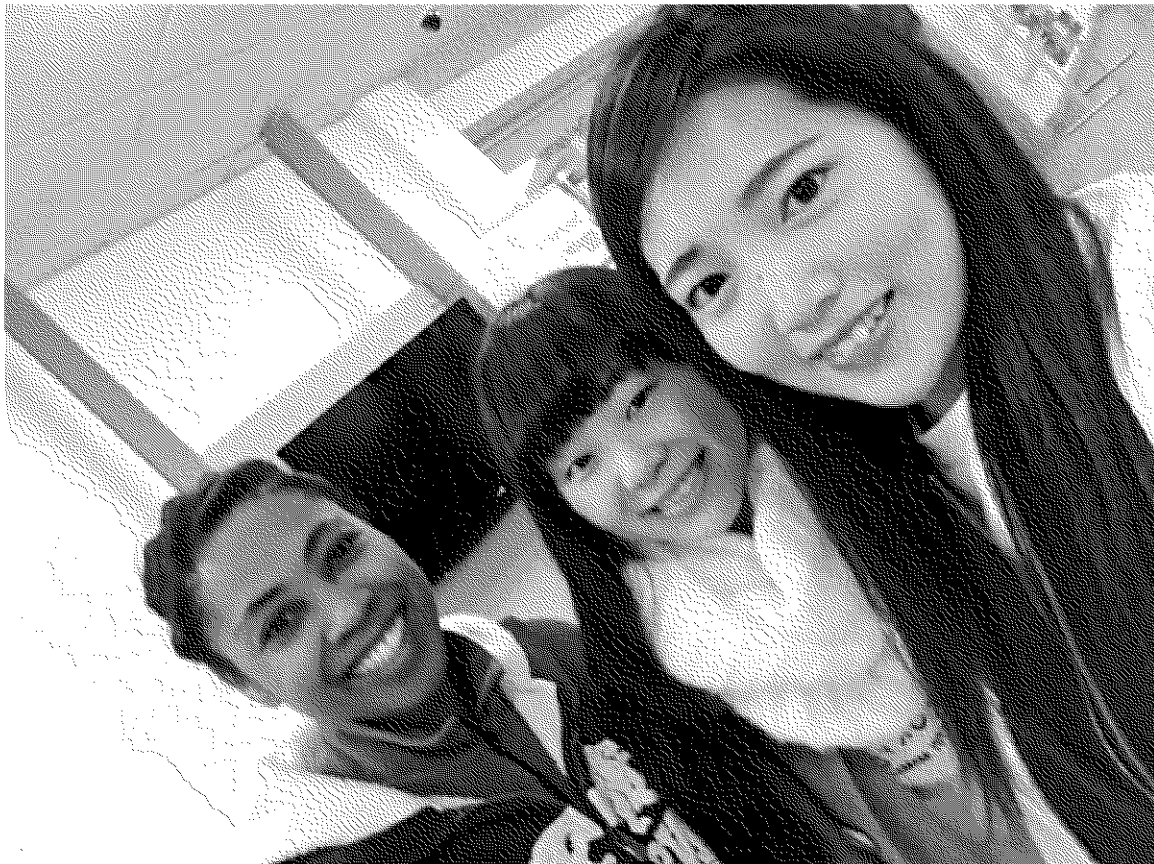


13、14日目：3月24日（木）、25日（金）

BSDCでの授業や観光・ホームステイを終え残るは帰国のみになりました。もう2週間の派遣が終わってしまうと思ったら寂しく感じました。しかし日本に帰って家族や友達に会える考えると嬉しい気持ちももちろんありました。

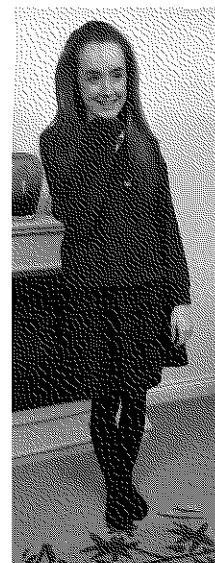
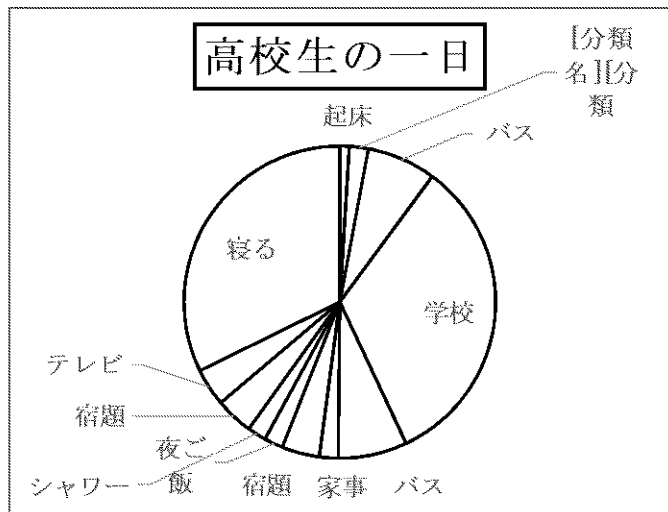
朝は5時45分にBSDCに集合だったため4時に起きました。スーツケースに荷物を詰め込み朝ごはんを少しだけ食べ、5時20分頃には準備が完了しました。スーツケースは本当に重く規定の重さを守れているかが心配でした。ホストマザーも出発の20分くらい前の時間に起きてきてくれいつものように挨拶をしてくれました。ホストマザーに家の鍵を返し車に荷物をつめこみ、5時30分頃に家を出発し大学へ向かいました。大学の駐車場に車を止め集合場所に行きホストマザーにポストカードをプレゼントしました。ホストマザーと最後の写真を撮りみんなでバスが停まっている所へ向かいました。ホストマザーは最後までずっと私たちのそばにいてくれて見送ってくれました。最後に三人でハグをし、バスへ乗り込みました。本当にお世話になったホストマザーに感謝の気持ちがいっぱいでした。

1時間くらいでバーミンガムの空港に到着しアムステルダムへ向かいました。アムステルダムから成田まで約10時間のフライト、朝が早かったためほとんどの時間を寝て過ごしました。成田に到着しそこで6時間ほど時間があつたため時間を潰し夕方、中部国際空港へ向かいまいした。1時間遅れで出発をしたため到着も遅れてしまいました。中部国際空港から豊田市までバスで向かい家族が待っている神田公園に21時頃に到着しました。家族に会うのが久しぶりすぎて会うのが少し恥ずかしくも感じました。やはり1番は本当の家族だなと改めて感じました。(梅村)



レポ ー ト

イギリスは、義務教育は5歳から16歳までの11年間で、初等教育5歳から11歳、中等教育11歳から16歳、高等専門教育16歳から23歳に分かれていて、ホストブラザーは初等教育のプライマリースクール、ホストシスターは、中等教育のセカンダリースクール最後の年です。グラフは、ホストシスターメガンの1日です。6：15起床、学校が家から遠いので、早起きです。6：30から身支度です。イギリスは基本一日に二回シャワーをあびます。出かける前と、夜ご飯の前の二回です。朝食は軽く済ませることが多く、シリアルかトーストを各自作って出かけます。右下の写真がメガンの制服です。学校でのメイクが許されていて、大体の女の子は、中等教育に入る年くらいからメイクを始めます。1時間ほどバスに乗ります。日本では大抵中学校は家の近くに通い、高校から自分で選んで受験しますが、イギリスでは、中学校からコースに分かれて、自分の将来にあった勉強をすることもできます。メガンは、ファッションや、デザイン関係の学校にかよっています。このため、通学時間が長いことは、まれではないそうです。右下の写真が私の乗ったバスの写真です。9：00から35分間の授業を重ね、ティータイム、ランチタイムを挟みます。ティータイムでは、名前の通り、お茶を飲むだけでなく、ケーキやお菓子を食べるそうです。学校には日本のように部活というものが無いので、すぐ家に帰ります。習い事などは、土日にすることが多いそうです。宿題を済ませ、夜ご飯を食べます。ホストファミリーはカレーが好きで、ほとんどの日がカレーでした。シャワーを浴び、家族みんなでテレビを見ながら、紅茶とケーキやお菓子を食べて、ベッドに入ります。また、日本の高校生がスマホやアイホンでラインをするように友達とのコミュニケーションとして、スナップチャットを使っていました。日本とイギリス、生活や環境に多少違いはありますが、ほとんど変わらないと思いました。



バスの乗車時

日本人は降りる時にお金を払って何も言わずに降りていく乗客がほとんどです。しかしイギリスでは必ず挨拶をして降りていきます。乗客から挨拶する場合もあれば、運転手から挨拶する場合があります。"thank you"だけでなく、"have a nice day"や"Take care"などとてもフレンドリーに声をかけてくれるので、毎朝気持ちのよいスタートを切ることができました。日本人はサービスを受ける側、与える側の区別がはっきりしていますが、イギリスではそのような意識をあまり持っていないように感じられました。



食事の時

私たちは食べ物や作ってくれた人に対して感謝を込めて手を合わせ"いただきます""ごちそうさま"と言います。この習慣は韓国にもあり"いただきます"は"チャル モッケ スムニダ""ごちそうさま"は"チャル モゴッ スムニダ"です。しかしイギリス人は何も言うことなく食べ始めます。作ってくれた人に感謝する言葉があるといいなと感じました。また日本人は全員が席に着くまで食べ始めませんが、イギリス人は自分の分をもらったらすぐに食べ始めます。食事の時は日本人の人の良さを再認識する事が度々ありました。



出会い別れの挨拶

イギリス人は初めて会ったときハグをします。久しぶりの再会の時も同様です。しかし日本人はシャイなためハグはおろか、握手でさえも躊躇します。初めは少しためらってしまうこともありましたが、ハグをすることですぐに相手との距離を縮めることができると感じました。別れの際には自分からハグをしていました。

まとめ

挨拶に焦点を当てただけでもこれほど違いがありました。お互いの国に良い点があり互いに尊重しあうことが大切だなと思いました。イギリス人の心温まる行動に忘れかけていた大切な習慣を再認識することができました。またこの研修を通して異諸国の文化の違いを目で見て肌で感じる事ができました。

・人間性

イギリスの方々は誰に対してもフレンドリーで話しやすかったです。イギリスへ行く前は"イギリス人は親切ではない"と聞きましたが、実際優しく声を掛けてくれました。

滞在中のある日、学校帰りのバスで知らない方が私たちに親切に話を掛けてくれて降車地点までずっと日本の事や私たちの事についていろいろ聞いてきてくれました。降車する時に"Good luck"と言ってくれてうれしかったです。

・店

イギリスのお店の店員はほとんどが携帯をいじりながら仕事をしていますが呼ぶとすぐ来てくれて商品を取ってくれたり、会話をしようとしてくれました。

何を買うのか迷っていた時は店員さんが自分の意見を言い手伝ってくれました。

店員さんは皆明るい方でお店の雰囲気もとても良くて、買い物しやすかったです。



○食事

イギリスといえば「食事があまり美味しくない」という印象が多いですが私はそうは思いませんでした。私のホストマザーはとても料理を作ることが好きということで作る料理はほとんど美味しかったです。なかには日本人の口に合わない味のものもありましたが大学での食事でも美味しく感じました。朝はほとんどシリアルを食べましたが牛乳が日本のとは違い口に合わなかったため牛乳なしでシリアルは食べました。もちろん日本茶がでることはなく家での食事は全てジュースでした。日本とは違いイギリスは一つのお皿にすべてのご飯を盛り付けていました。あまりきれいには盛り付けをしていなかったことを覚えています。イギリスのお米はパラパラしていて日本のお米より細長くあまり美味しくなかったです。食事にはよくポテトがでてきてそれは日本と同じような普通のポテトでした。

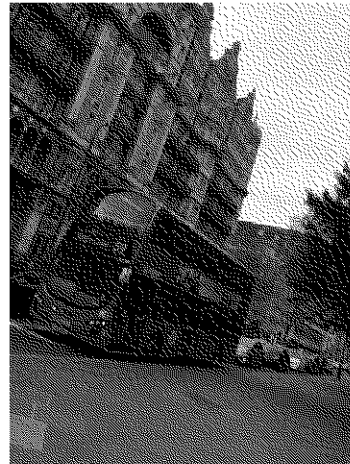
○バス・道路

イギリスのバスは日本との違いがたくさんありました。日本のようにアナウンスがなく自分たちで降りるバス停を理解し停止ボタンを押して運転手に知らせなければなりません。なので初めてバスに乗るときは運転手に降りたいバス停の写真を見せ、教えてほしいと伝えてから乗車しました。バスの運転手はみんなとても優しく親切でした。

道路はガタガタなところが多く車やバスに乗っているときは揺れがすごく酔いやすかったです。バスでは手すりにつかまっていなくて危ないと思いました。バスのシートは日本にはない対面式のシートもあつたり二階建てのバスもあつたりしました。乗るときにお金を払い降りるときはお礼のみをしてみんな必ずお礼を言いお運転手もお礼を言っていたためすごいと思いました。

○お店

お店に入ったとき、店員さんは声をかけてくれませんがレジに行くとい挨拶をしてくれ笑顔で見送ってくれます。しかしなかにはあまりやる気がない人もおり印象が悪い人もいました。たいていの人が本当に優しく小銭の出し方が分からなかったときは教えてくれました。商品の並べ方は日本のようにきれいに揃っていないくてパッケージの中にゴミが入っている商品もあり日本は綺麗だと改めて感じました。



僕が今回の派遣に参加するにあたって目標を二つ設定しました。

一つ目は「間違いを恐れず楽しくコミュニケーションをとる」ことでした。

せっかくイギリスに来たのに英語を使わずにいるのはもったいないことですし、日本人ではないのですがずっと部屋に閉じこもってしまっていた学生も過去にいたと聞いてこの目標を設定しました。最初のうちホストファザーの言ってることが全く分からず、うまくコミュニケーションが取れなくてどうしたらいいか分からなくなりました。部屋にも机はありましたリビングにはコンセントが見当たらずに携帯の充電にも困ったりしましたが、意図的にリビングで過ごすようにしました。それからは大学でやった活動や自分たちの高校の話ができました。またイギリスに来てから Yes や No だけでなく「maybe」「I think so」を多用するようになりました。返事ははっきりしたほうが良いのですが、わかってないことを Yes と言ってしまうと、相手に何もわかってないんだと判断されそうだったからです。また、イギリス人も曖昧な表現を多用してる気がしたからです。お国柄かもしれませんが。

二つ目の目標は、「正確に聴き取り、自分の考えたことを素早く伝える」です。

日本にいた時から日本語を正しい文法で訳すのが苦手だったので何かコツをつかめればと思ってこの目標を設定しました。今回の派遣で素早く訳すにはもっと練習が必要だと感じました。英語の言い回しを覚えて当てはめること、時制に注意すること。頭で考えると時間がかかるので覚えている言い回しは素早く、言いにくいことはもっとわかりやすい文章に変える。ある程度割り切って話すことも重要だと思いました。また声の大きさも重要でした。僕はあまり声が大きいほうでなく僕が英語で話しても聞き返されることが多かったです。ネイティブの英語は一つ一つの単語が丸くなって聞こえるので、はっきりと言わないと日本人の英語は通じないと痛感させられました。目標の達成度はあまり良くないものでしたが、新たな発見もあっていい派遣になりました。



僕は、笑うこと、笑わせることが大好きです。僕はこの派遣で言語、国の違いは笑いには大きく関わらないことが分かりました。日本での面白いとイギリスでの面白いの感覚の違いはありますが基盤の違いはありませんでした。

次にコミュニケーションについてです。日本語が通じない国でコミュニケーションをとるのは難しいことです。日本にいても知らない人に話しかけることなんてまずしません。

でも、海外は日本人みたいに奥手ではありませんでした。こちらから話しかけなくても向こうから話しかけてきてくれます。

イギリスでの生活にも慣れ5日も経つと、緊張はするものの話しかけることができるようになりました。お店の店員さんや町を歩く人に話しかけたり、BSDCの学生さんとのコミュニケーションをとることができるようになりました。「自分から動く」ことをしたおかげで、自分の可能性、足りないものが明確に分かりました。

続いて、笑いの話に戻ります。

僕は、笑いとコミュニケーションは親戚ではないかと思います。笑いはコミュニケーションの中に入り、ふとしたところに転がっているものではないでしょうか。

最終日のカルチャーショーで、イギリスと日本の店員さんの対応の違いを演じた劇では英語での劇ということで伝えることとウケを取ることに重点を置いてやりました。

本番ぎりぎりまでウケを取るポイントを悩んで、最終的に電話と接客でのテンションの違いのところで取ることにしました。結果は見事ウケを取ることが出来ました。

全力で真剣に取り組むことでしか生まれない物があると思うし、努力は裏切らないことを学びました。



1. テーマ設定の理由

私は食べるのが好きです。しかし、イギリスは食べ物がおいしくないとよく耳にします。そこで私は世界無形遺産に指定された日本食とおいしくないとされている英国料理とで比較して違いを見つけてみたらどうだろうと考え、イギリスにいた2週間の食事をすべて記録し写真を撮ってきました。

2. 研修の結果 <私が食べた2週間の食事>

| 朝 | 昼 | 夜 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・食パン ・マフィン ・シリアル ・目玉焼き ・ベーコン ・ヨーグルト ・果物 ・フルーツジュース など | <ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチ ・フランスパン ・ビーフシチュー ・ラザニア ・フライドポテト ・クリスプ ・ケーキ ・果物 ・水 など | <ul style="list-style-type: none"> ・フランスパン ・ローストビーフ ・ラザニア ・サーモンのパイ包み ・野菜炒め ・マッシュポテト ・サラダ ・ケーキ ・フルーツジュース など |



<3月13日の朝食>



<3月16日の昼食>



<3月14日の夕食>

食事のほかにも日本とイギリスでは全く違いました。まず、食事のスタイルです。日本の場合、ご飯はご飯、味噌汁は味噌汁など1つ1つのお皿に盛り付けられ、箸で食べます。しかし、イギリスは食べる人分の食事が1つのお皿に盛り付けられ、1人1人きれいなお皿が用意されていて自分で食べられる分をよそい、フォークとナイフで食べます。はじめは、慣れない食事スタイルに戸惑いました。それから、食べ物に対する考え方です。ホストマザーと一緒に英国料理を作ったBSDCの生徒も、まだ食べられるものも余ったりいらなかったりしたらすぐにゴミ箱に捨てていました。日本では考えられないので驚きました。

3. 考察・感想

日本とイギリスの食事を比較してみて、日本がどれだけ食べることを大事にしているのかが改めてよくわかりました。食前、食後には手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」という文化も、日本人の食に対する気持ちが表れているなど感じました。私はこの日本の文化を大切にしたいし、もっと外国にも広められたらいいと思います。イギリスの食文化を学びつつ、日本の食文化の良さにも気づくことができたので、今まで以上に日本の文化に誇りをもって、これからも大切にしていきたいと思います。

この派遣で日本とイギリスの間で大きな違いを見つけることができました。1つはイギリス人は日本人とは違ってどの年代の程よ人もフレンドリーでとても接しやすかったです。バスに乗ってるとき1人の女性が私たちに話しかけてくれました。その女性は東日本大震災のことをテレビで見たらしくて、「震災のとき大変だったよね?」「今、東日本は大丈夫なの?」とか心配していました。他にもお話をしました。バスを降りるときに「がんばってね!」と言ってくれた時は、とても嬉しかったです。日本人もイギリス人みたいにフレンドリーになれたらいいなと思います。2つ目はバスの中です。

日本のバスはゴミが1つも落ちてないけど、イギリスのバスの中は缶やペットボトル、お菓子のごみとか普通に落ちててこういう所は日本の方がいいと思いました。3つ目は店員さんです。イギリスのお店で働いてる人たちは当たり前のように携帯をいじりながら仕事をしてて、見たときは驚きました。こういう所は日本の方がしっかりしてると思いました。日本もイギリスもそれぞれ悪い所があればいい所もたくさんあるので両方いい国だと思います。

①食の違い

- ・1プレート

全ての料理を一皿で盛り付けており、一品一品を別々のお皿に盛り付ける日本と違って合理的である。

・リンゴや洋なしなどの果物は切らずにそのまま丸かじり。洋なしをそのまま渡されて、このまま食べるんだよと言われて驚いた。

②生活の違い

- ・洗濯機が台所に設置されていた。
- ・数枚の選択ものを干す板状の乾燥機があった。



ここに洗濯物を掛けます。
スイッチがないのに、洗濯物を掛けると勝手に温かくなり洗濯物が乾く。

・浴槽はあるが湯を貯めてつかることがない(ユニットバス)。基本朝シャワーを浴びる習慣だった。ホストファミリーには、いつ使用してもよいといわれていたので、寝る前にシャワーを浴びた。

③考え方の違い

- ・初日からホストファミリーが家の鍵を預けて外出するところ。

信頼されているのか、気を使わない文化なのか、日本人の感覚ではちょっと考えられなかった。滞

在期間中は、鍵を渡してくれていたもので、ホストファミリーが留守のときが時々あった。

④街並みの違い

- ・レンガ造りの家が多く見られた。
- ・鉄道は駅のアナウンスがなかった。路線のマップを自分で確認して下車した。
- ・信号のいないラウンドアバウトが多く見られた。

⑤人種の違い

- ・複数の人種が多い。インドがイギリスの植民地だったこともあり、インド人が多い。

イギリスと日本の様々な違い

塩崎 可恵

1 挨拶の文化

私は、家から BSDC まで約1時間バスに乗って通学していました。その時に思ったことです。まず、バス停に行ったら近所の人が挨拶をしてくれるということです。そしてバスに乗ったら運転手さんが“Hi”や“Good morning”と必ず挨拶をしてくれました。お金を払ったら“Thankyou”と言ってくれます。バスに乗ってからも“Hi”と声をかけてくれる人もいました。バスから降りるときは必ず“元気で”や“ありがとう”運転手さんがいってくれました。このような挨拶の文化はバスだけでなく買い物のときや、外食に行ったときなどいろんな場所で感じることができました。日本にはあまりない文化だったのでとても新鮮でした。

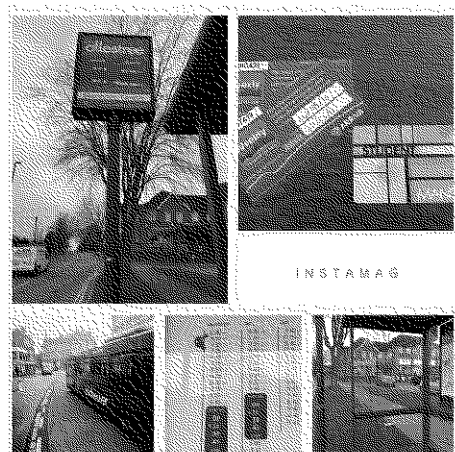
2 信号の違い

これも私がバスに乗っているときに感じたことです。日本は交差点になっていますがイギリスはほとんどがラウンドアバウトになっていました。みんなが同じ方向にまわるため事故が起こる確率が少なくなるのかなと思いました。また、ほとんどのラウンドアバウトの中心は芝生や木でしたが、中にはこの写真のように花が植えられているオシャレなところもありました。日本の交差点では感じることもできない自然を感じることができました。



3 バスの違い

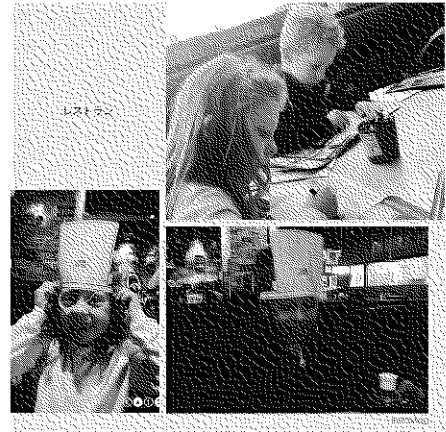
私はバスを2つ乗り換えて通学していました。最初のバスは“マンゴーカード”といって日本で電車に乗るときに使う“mana”みたいなかんじでした。次のバスは自分で一週間分の日付を書いてそれを運転手さんに見せるといった感じでした。一日の場合はレシートみたいなものを渡されるだけでした。どちらのバスも次はどこのバス停なのかという表示はなく自分が降りるバス停の近くにきたら自分でストップボタンをおして降りるという形でした。そしてもう一つ気づいたことは、バス停の間隔



がとても狭いということです。私のバス停のすぐ近くにもバス停がありました。より自分の家の近くで止まることができるので便利だなと思いました。

4 レストラン

ホストファミリーに外食に連れて行ってもらった時に感じたことです。イギリスのほとんどのレストランでは子供がいると必ず子供が遊ぶ用のセットを渡してくれます。その中には、色鉛筆、塗り絵、迷路、文字探しなどがはっていました。店によって内容は異なりますが食事が出てくるまでの時間が暇になってしまわないようにするためだと思います。私のホストファミリーの子供も真剣に塗り絵をして、ホストマザーにみせてみてと見せていました。日本のレストランにはご飯についてくるおもちゃはあっても待ち時間に遊べる塗り絵などはあまりないのかなと思いました。また、イギリスのこういった習慣がいいなと思いました。

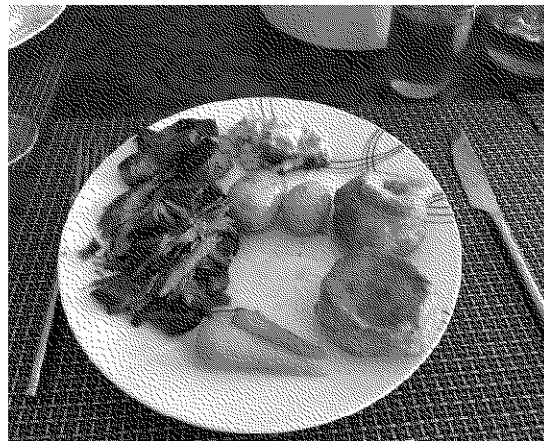


宮崎 紗菜

私がイギリスで一番驚かされたのは食事についてでした。

もともと知ってはいましたが、箸がなくスプーン、フォーク、ナイフしか使えませんでした。知ってはいましたが、日本人の私にとっては、辛かったです。

さらに、一つのお皿にまとめて盛り付けるが主流なので、汁物が出た時は味が混ざって、微妙な味になる事がしばしばありました。しかし、洗う時は、洗うものが少なく、水の節約になると思いました。



イギリスでは味の濃いものが多かったです。ある時、喉が渴いたと思い、レモネードを飲むと味が濃くて、とてもではありませんが飲む事が出来ませんでした。ホストマザーが水で薄めて飲むんだよと教えてくれ飲む事ができました。基本イギリスで飲み物は薄めて飲むのが主流のようです。このほかにも、特にチョコレートなどのスイーツ系が日本のものより甘かったです。

イギリスで食べた回数が一番多いサンドウィッチですが、これも日本とは違ったところがありました。それは使っているチーズです。イギリスではパラパラのチーズを焼かずに挟みます。食べる時にボロボロこぼれましたし、口の中に残るので、焼いてほしいなど少し思いましたが、慣れてくると全然気にせず、美味しく食べる事ができ、アフタヌーンティーの時はとても美味しく食事をする事ができました。

私のホストファミリーは残ったものはすぐ捨てていました。これを見て、日本のもったいないと



という言葉の説明するとひどく驚かれました。日本の食材に対する感謝とこのもったいないという言葉を大切にしたいと強く思いました。

イギリスの文化に触れて感じたこと

大嶋 七海

*交通・環境

イギリスには交差点が少なく、ラウンドバウトが多く用いられていました。これにより車の流れが止まらず、渋滞を防げるのだなぁと思いました。また、信号機がない所が多く、歩行者は車の流れを見て渡る時に渡るという感じでした。日本とは違い、ガードレールや電柱も少なく、建物の造りに統一感があって見栄えがすっきりしていて素敵だなぁと感じました。少し残念に感じたことは、せっかくの綺麗な街並みなのに、ポイ捨てが多かったり、路上駐車が多くのが目立ちました。これは、呼びかけやボランティアを行うことで改善できると思いました。

また、イギリスには多くの国の方たちが住んでおり、顔立ちなどそれぞれ違い、たくさんの文化が合わさっているのだなぁと感じました。



*あいさつ・マナー

イギリスのあいさつは、はぐが一般的で、日本人の私には少し恥ずかしかったです。またイギリスの方たちは、扉を開けて待っていてくれたり、荷物を運ぶのを手伝ってくれたり、優しい人が多いなあと感じました。イギリスのお店の店員さんは冷たい人が多いと聞いていたのですが、そんなことなく"Thank you"と言うと笑顔で"Thank you"と応えてくれる人が多かったです。

私はこの2週間で、イギリスの文化について多くのことを知ることができました。

イギリスの食文化

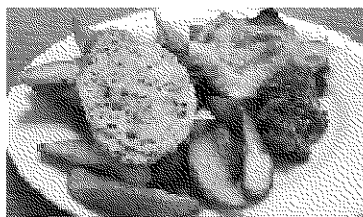
倉山 沙葵

*朝食

私のホームステイ先では毎日、シリアルやグラノーラ、トーストを食べていました。それとオレンジジュースで朝は意外と少なめでした。日本での朝食とあまり変わりませんでした。卵やウィンナーなどを全く食べないことが大きな違いでした。

*昼食

昼食は主にピザ、サンドウィッチ、ポテトがメインでした。ピザはホストファミリーとドミノピザを食べに行くこともありました。味付けが濃く、高カロリーなものが多かったですが、美味しかったです。ポテトチップスのようなお菓子がついていることもありました。



←BSDCでのランチ

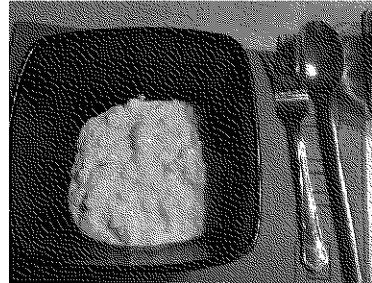
*夕食

ホームステイ先では、ホストファザーが毎日料理を作ってくれました。カレーが出るときもあり驚きました。そして、日本のとは少し形が違いましたが、お米もできました。もちもちで柔らかかつ

たです。パスタ、サラダ、茹で野菜などとても料理が上手で美味しかったです。ただ日本のように汁物やスープは、ほとんどありませんでした。夕食後によくホストマザーがデザートを作ってくれました。お米に甘い味付けを加えたライスプディングや、バナナが黄色いカスタードに浸ったバナナカスタードなど、甘さたっぷりでした。



↑ホストファザーの手料理



↑ライスプディング

*もったいない精神

日本では食べ残しを「もったいない」という気持ちから、誰かが代わりに食べたり、食べられそうなら次の日にとっておいたりします。しかし、イギリスでは食べ切れなかったもの、食べなかったものをそのまま捨ててしまいます。もったいないと思いました。イギリスには、「もったいない精神」があまりないのだとわかりましたが、食べ物を大切にする気持ちや、ごみを減らすためにも大事なことなので、伝えられたらいいなと思いました。

イメージとのギャップ

濱口 莉奈

私がこの派遣を通して 1 番驚いたことは、イギリスのイメージと実際に感じたことの違いです。人柄、国の雰囲気など、さまざまなイメージとのギャップがありここまで違うのかと感心しました。それに基づいて特に驚いた、イギリスの店員のイメージと実際の違いについてテーマにしたいと思います。

私はイギリスの店員さんはあまり愛想がなかったり、お店で何か困ったことがあっても助けを求めることはできなかったりするのではないかと勝手なイメージを付けていました。しかし、実際の店員さんはとても親切でした。

例えば大学周辺のモールで買い物をしているとき、私は買いたい物の値段がわからず店員さんに尋ねました。すると店員さんはレジでバーコードを通して値段を確認してくれました。それを見て私はとても驚きました。日本では商品やその周りを見て見つからなければわからないと言うし、お客が外国人だと気が引けてしまい、わからないと言ってしまう場面も少々みかけることがあります。しかしイギリスの店員さんは、私が外国人だということを判断し、値段表示の画面を見せてくれたのです。正直私は、日本の接客のほうが丁寧なものだと思っていました。確かに日本のお店に入っていらっしゃいませと言われることはありません。けれどイギリスの店員さんはお会計をするとき Hello と必ず挨拶をしてくれます。私は実際に見たこともないのに日本の接客のほうが丁寧なものだと思い込んでいたことを恥ずかしく思いました。確かに日本の接客にも誇れるものはたくさんありますが、思っていたような明らかな差は感じられませんでした。

他にもあります。Tesco へ行ったとき私は pence の使い方が分からず戸惑っていました。する

と店員が手に出した小銭から一つ一つ確認してくれて、さらに数え方まで教えてくれました。私はイギリスの人々の温かさに触れることができました。

私は、イメージにとらわれている部分が多くあり、知っているつもりになっていましたが、実際に見てたくさんの違いを感じることができたと感じました。日本のおもてなしが世界で注目されている今だからこそ世界のおもてなしについて深く調べてみたいと感じました。



思い出だけでは終わらせない～輝く未来への一歩～

福島 沙菜

今回のイギリス派遣は私の人生において未来の道を切り開くための一歩となったように感じます。私の通う南山国際という学校は帰国子女または外国国籍を持つ生徒の通う学校で、つまり英語をほとんどの生徒が話せるという環境が私の周りにはあります。私はその中で英語の実力のレベルでいうならば中の上ぐらいのレベルにあると思っています。周りが「話せる」という環境にあるとどうしても英語を話すことに遠慮がちになってしまいます。文法はあっているのだろうか、つづりはあっているのだろうか、発音はどうかなどと不安になってしまうからです。正直英語の自信なんてものはありませんでした。しかし今回のイギリスの派遣で久しぶりに周りが英語をあまり話すことのできない友達ばかりの二週間であらたな刺激をえることができました。みんなは英語を完璧に話したり理解することはできないものの積極的に BSDC の生徒たちに質問を投げかけたりする姿を見て、私ももっと積極的にならねばと考えさせられました。BSDC の生徒たちとサンドウィッチを作る体験や、スポーツをする時など、せっかくの機会だと思って文法や発音などは気にせずに話しかけることにしました。



また、ビール工場や紡績工場では説明をする方の通訳をみんなにすることもありました。現地の先生や生徒たちはそれにたいして笑顔で受け答えしてくれました。「英語上手だね」と褒めてくれる人もいました。それを帰国してから私の学校で伝えると驚かれ、笑われてしまいました。でも確実に今回の派遣が私の英語力の自信に繋がったことは確信しています。だからといってこのままではいけません。もっともっと英語の実力をあげたいとも思いました。それはきっと私だけではなく、二週間一緒に過ごした仲間たちも同じだと思います。通じない、わからない、そんなもどかしさを何度も感じたこの二週間はもっと勉強したいという思いでメラメラと私たちの心を燃やしました。みんなが同じ色の瞳をしていました。

大学の授業が終わると毎日のように私たちは近くのモールに足を運び、買い物やお茶をしました。COSTA というイギリスではスターバックス並に店舗数を伸ばすコーヒーショップでお茶をする際、私たちはよく大学の話をしました。



高校二年生が終わり、帰国すればもう三年生を目前とする私たちの間ではよく話題になりました。イギリスに来る前はなんとなくしか考えていなかった私ですが、毎日いろんなことに触れ、新たな刺激をえた私は大学で留学をしたいと強く感じるようになりました。日本よりもイギリスの大学はより専門的になり、学びたいことを深く学ぶことができることを聞きました。語学留学でとどまるのはもったいないと考えた私は英語の実力の向上は当たり前、それ以外にも学びたいことを学びたいです。できることならまた BSDC に戻ってこられたらなとも思います。そのことを帰国後、仲良くなって連絡先を交換した BSDC の先生にメールで伝えると応援してくれると言ってくれました。今回の経験を決して楽しかった思いだけには終わらせたくありません。この経験をいかして世界で羽ばたく力ある女性になりたいと思います。

平成27年1月1日の豊田広報「未来へ紡ぐ 衣の里の歴史」という特集記事が印象的でした。内容は「木綿の生産から養蚕へ。そして、自動車産業へと変遷した豊田市の産業」です。半年後バートンアポントレントへの派遣が決まった時、不思議な偶然を感じました。英国中部は豊田市同様、生産業が盛んで、産業革命揺籃の地です。ユネスコ世界遺産ダーウェント峡谷の工場群をこの目で見られるのだと思うとわくわくしました。

派遣前には「豊田市近代の産業とくらし発見館」を訪れました。ここには明治から昭和34年までの近代産業遺跡・近代化遺産、市街地の変遷や近代のくらしに関する資料、その他関連する資料が展示されています。資料を見ながら、「ガラ紡が近所にあったな」、「豊田市駅の近くでお蚕さん飼っていたんだ」など懐かしい気持ちになります。

派遣を通して見つけた挙母と英国中部の共通点は繊維業の成り立ち、川または運河を用いた水運、水車の利用です。ダーウェント川上流のクロムフォードミルはかつて鉛の鉱山があり、鉱夫の妻と子供を労働力として利用したのがリチャード・アークライトでした。女性と子供の小さな手は紡績機に有用だったのです。彼は熟練を必要とする手紡ぎを、技術改革によって技術がなくても大量に生産することを可能にしました。また、川の流れを利用して水車を回し、動力を得ました。

挙母では矢作川の川舟で山と海の間物流を行いました。一方、クロムフォードミルでは運河を用いて、輸入した綿花を港から運び、生産した綿糸を各地に運んだそうです。バートン校のある場所はかつて運河の土場<どぼ>（積み下ろし場）でした。同様に矢作川沿いには数箇所の土場の跡があります。

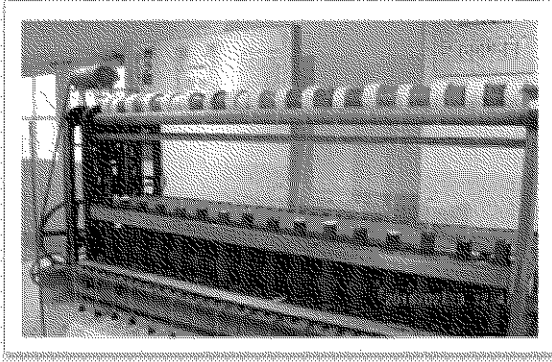
ミルは12時間交代勤務を行い、昼夜操業しました。遅刻すると半日分の給料が引かれてしまうそうです。独身寮や社宅を作り、3階は工場にして2階と1階を住居としました。事業家としてのアークライト卿のアイデアに感心しました。

猿投山付近では「トロンミル水車」で陶磁器の原料を作っていたそうですが、バートン校の近くにはClay Millsという地名があります。おそらくここで同様に陶磁器などを作るための粘土を生産していたのでしょう。

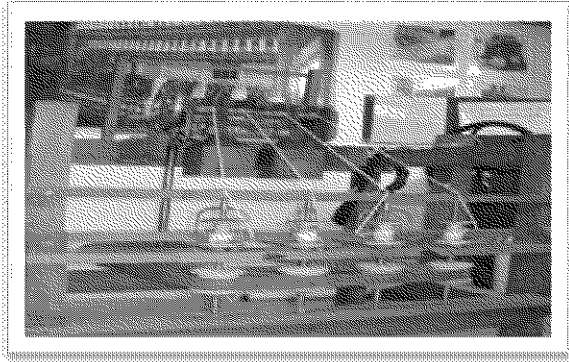
ダービーでのバスの乗り継ぎ時間を利用してダーウェント川下流にあたるダービーのSilk Millも訪れました。内部の展示は今後リノベーションを予定しているそうで、発見館の方がかなり充実していますが、美しい外観と広々とした内部を残しています。発見館で撮った桑の葉を食べる蚕の写真がある年齢以上の人に見せては、”Do you know what these are?” と訊いたのですが、誰も知りませんでした。バートン校のレストランThe Mulberryは絶対、養蚕に関係あると思ったのですが、「偶然だね」「よくある広葉樹だよ」という反応でした。また、クロムフォードミルもシルクミルもシニアの方が生き生きと説明をされているのが印象的でした。

最後に、派遣団が事前に研修を積んだ豊田市産業センターは加茂蚕糸の跡地に建っています。私はプラネタリウムができるまで豊田市駅の西側に何があったのか憶えていませんでしたが、大きな工場があったのです。銅像と記念碑もありますのでぜひ見ていただきたいと思います。

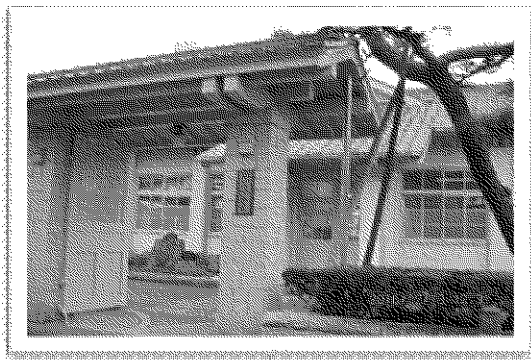
派遣の前でも後でも、豊田市とバートンアポントレントの相違をより深く学ぶため発見館を含めた豊田市の産業遺跡も見てください。



ガラ紡（豊田市近代の産業とくらし発見館にて）



クロムフォードミルにて



豊田市近代の産業とくらし発見館
（かつての愛知県蚕業取締所第四支所挙母出張所）



シルクミル（ダービー）

派遣レポート

中村 アレクサンダー 亮二（引率教諭）

今回の派遣に向かうにあたり、自分の中でのテーマに英語力を試したいという気持ちがありました。自分ばかりと日本の中では特殊な環境に育ちました。アメリカ人の父と日本人の母をもち、英語に普段から接する機会は多くありました。しかし、私自身、父親に対して英語を使うことは全くありませんでした。聞くことには慣れていても、話すことに慣れていませんでした。そういったことから自分の英語力がどこまで通用するのか試してみたかったのです。いざ、ホストファミリーと会って会話をしてみるとイギリス英語の発音に慣れず、聞き取りづらいこともありましたが、以前の自分と違って英語を使ってコミュニケーションを取れていることを実感できました。ホストファミリーとの何気ない会話であったり、少し難しい話題（移民や教育について）についても挑戦し、通じると嬉しく、英語で話すことを楽しく感じていました。それからというもの、BSDCの職員の方や生徒とも積極的にコミュニケーションをとるよう心がけました。時にはトラブルもあつたりしましたが、なんとかやっていくことができました。テレビの英語も以前であれば単なる音としてしか聞こえてこなかったことが言葉として聞こえてくるようになり、小さい頃に見た映画が画だけでなく言葉から頭に入ってくるようになってきました。ただ、苦勞した点もありました。イギリス

の方の英語のなまりというよりも、現地で暮らす移民の方のなまりが強かった点です。訛りが強いこともあって一回で聞き取ることができなかったこともたくさんありました。しかし、人間というのは不思議なもので、同じような英語を短期間で何回も聞いているうちに耳が慣れてきて普通の英語として聞き取ることができてきました。こういった経験も、今回の派遣に参加できたからこそのものだと感じています。



英語感想文

(Reflections on experiences in Derbyshire,
written by each student in English)

間所 麻衣 MAI MADOKORO

When we said good bye I feel sad like losing a member of the family.
I had my host family teach me we can break barrier to communication resulting from speaking different languages.
Thank you for giving me this kind of opportunity.
And I want to thank all of the people who have been involved with me.
I want to continue to get close to her in the future as well.

荻野 真帆 MAHO OGINO

I had a great time in England.
Everything was new and interesting.
I understood how great Japanese culture is again.
This experience broadened how I see the world.
I will never forget memories and the people who I met there,
I would like to go to England again someday.
I will forever be grateful for the people who have been involved with this program
Thank you very much.

後藤 香穂子 KAHOKO GOTO

【wonderful days in the UK】

I was really looking forward to joining BSDC programs and staying with a host family.
These were very amazing two weeks.
What was the most memorable thing was making afternoon tea.
My host sister goes to BSDC to study catering.
I made scones with her.
She taught me how to make them thoroughly.
Afternoon tea was delicious.
That's because we made them with our cooperation.
My host family greeted me very warmly.
When I had problems, they kindly helped me.
I owe you many things.
I made Udon for my host family.
They tried to use chopsticks.
They ate up the meal.

They said to me “It was delicious. Thank you.”
I was glad to hear that.
Learning at BSDC and staying with my host family was a treasure to me.
I will never forget these memories.

安里 ヒトミ HITOMI AZATO

About British store and Japanese store

When I went to shopping in England,
The clerk of the shop came over me and told me about recommended products.
After that, the clerk go back to his work and I was able to my shopping.
On the contrary the Japanese clerk stay next to us all the time.
They are very kindly but if they are being next, I can't enjoy my shopping.

梅村 美咲 MISAKI UMEMURA

The opportunity when I participated in for this dispatch is because I was interested in overseas culture.

I was able to have many experiences in BSDC.
My best memory is of going to outdoor activities with BSDC students.
I was very tired but it was very fun.

Also, the dish experience in the U.K. was fun, too.
The dish which I made with myself was very delicious.

I would like to tell British culture to many Japanese friends.
I made the best memories. Thank you ☆

菱島 裕太郎 YUTARO MINOSHIMA

I had two targets in this trip. I wanted to learn about English, and I wanted to take a good communication. They were generally able to achieve. This trip was very very fan, and it is useful for my future life. I am grateful to teachers who helped me. It was a good trip, thanks to the city clerk and friends.

荒賀 篤哉 ATSUYA ARAGA

<Most impressive thing in the U.K.>

My most impressive thing is culture show. I was worried about being able to express myself in front of people whose culture and language was different from ours. But after I went to the U.K., I communicated with many people and my mind was freed from worry. I cooperated with our member, so I could express myself and succeeded the culture show. Through this study tour, I found new me and next dream. I am grateful to a lot of people involve. Thank you very much.

鈴木 麻美 ASAMI SUZUKI

My treasure

I was able to spend a very good time in United Kingdom.
My No.1 memory is homestay.
I spent a really happy time with host family every day.
My host mother is very kind.
So I love her.
I made another family.
I'm glad to have met my host family.
I won't forget this experience throughout my life.
I want to go there again.
Thank you for giving me this opportunity.

永松 サユリ SAYURI NAGAMATSU

British people and Japanese people

That left an impression is that the British people are very friendly. When we were riding the bus a lady started talking to us and we were talking until get home. She said "Good luck" for us so I was very happy.
We can't see it in Japan so I think that Japanese people should be more friendly like a British people.

松原 一真 KAZUMA MATSUBARA

TITLE : Good memories of afternoon tea

The memorable thing which I remember is cooking British food and drinking afternoon tea with my delegation members and BSDC students. Then, I cooked cream puff with woman who I was in charge of teaching me. I usually don't cook, so I felt uneasy before cooking it. But she taught me by showing how to cook, I could do it. In addition, when I had lunch with them, I talked a lot and took many pictures with everyone. So, I had a good time. If I have a chance to cook cream puff again, I want to try by myself.

塩崎 可恵 KAE SHIOZAKI

The kindness of UK people

The most impressed thing is the kindness of local people. I went to school by bus every day for the first time and I have helped by many people in many situations. Every time, I did not know which bus get on to and off, so I always asked bus driver.

United Kingdom of the bus is a large number of bus stops compared with Japan and it does not announce where to stop next. So, I have to look at the scenery and press the button by myself.

I always sitting on the seat anxiously. So sometimes, kind people asked me like this "where do you want to get off?" and press the button when approaching near my bus stop. Not only this examples but also in other situations, I had been supported by a lot of friendly people.

宮崎 紗菜 SANA MIYAZAKI

In the house of the host family, people visited well.

The person who visited enters the family with being without shoes and begins to talk with a host family intimately.

Sandra who had lunch together was very friendly.

In addition, I did not understand payment of the money and helped me when I heard it British people were very close, and I felt that the distance of the person was near in this way. I think that the Japanese may not be going to sometimes associate with a person from feeling embarrassed so deeply.

I thought that one's world was enlarged if I associated with a person like a British friendly.

大嶋 七海 NANAMI OSHIMA

The best memories

The most impressive thing is a cultural show. I hosted the show. I was very glad that a lot of people came and saw. I got nervous but I could facilitate fluently. I was in group C and we told people about Japan with a skit and dance. We did a soranbushi dance. It was in full swing because spectators were shouting "dokkoisyo" and "soran" with us. People laughed at our performance. I hope a lot of people learned about Japan and became interested in Japan.

I came home by car with host family. I had fun singing songs together. I felt happiest at that time. I have the best memories from this day.

倉山 沙葵 SAKI KURAYAMA

「My little friend」

I made friends with a 9-year-old girl in England. Her name is Paige. She is a grandchild of host family. She is a very kind, cute and likes music. When I first met her, she was very shy. I wanted to make friends with her, so I talked to her a lot. Then she called me "Saki", which made me very happy. She wrote a letter to me. I wrote a letter to her, too. I played family game and danced with her. She is good at dancing. She said to me that she did not cry at the parting, but she cried. I cried as well. I love Paige. I want to see her again in near future.

濱口 莉奈 RINA HAMAGUCHI

I enjoyed very much,

I enjoyed staying at host family's home. I appreciate every kindness. Spending time in U.K. All was a fantastic experience for me. I am really happy that I could meet such wonderful people. The traditional food I ate them at host family's home. I will never forget those tastes. A scone is one of the favorite foods in U.K. I enjoyed very much to cook it with Maddy who is youngest sister in my host family. I will try to make a scone with my youngest sister in Japan.

Through this experience, I think to study English very hard.

Outdoor activity at Rosliston Forestry Centre

At First, I sincerely appreciate the kindness to BSDS staff and student that all have offered to us. Especially to Mrs. Sarah and Mrs. Hannah. They support me very much and I really love them.

In my trip, I most enjoyed at outdoor activity at Rosliston Forestry Centre. From the day I came to UK, I have no chance to move my body a lot. So I was really excited for this day. Firstly, we played baseball and football. I heard that baseball is not very popular sport in UK so I was a little bit surprised for this. Many Japanese love baseball as well as football. Actually I'm not good at sports, but still I could enjoy because student was very friendly. They taught as the rule very kindly. My friend Kazuma, who is also student from Japan, is very good at football. So he looked very enjoying to the football game and the student of BSDC praised him very much. I was very happy to see that.

Next we did muscle training. I'm doing muscle training every day at my after school activity. It is dancing club. So, I thought I would be all right. But it was very hard. I think my muscle have dulled since I haven't moved my body a lot for two weeks.

Even apart from this, we did many activities. Every activity was very fun and I really enjoyed. I won't forget this special day in my life. I wish I could see the students who support and enjoy playing with us again.

Learning from Each Other

First of all, I would like to express my deepest gratitude to all of you for letting me involve in the study tour at Burton and South Derbyshire College as one of the delegation from Toyota City.

One of the most impressive things I found while I was at the College was the dedicated students. They focus on their future career. The first opportunity with them was at Toyota Manufacturing UK, Burnaston. The College and Toyota Motor Company UK has a link for 16 years and the students can get apprenticeship while studying. The next day, we prepared afternoon tea with the culinary students. On the 6th day at the College, we went to Rosliston Forestry Centre with sporting students, where we did some exercises together. Each of the college students looked so motivated and told me that this apprenticeship would surely provide them with more chances to get a job in the future. I was surprised to hear that some of them were younger than the Japanese students. On the other hand, our students are very

active and good at making friends. They also have a lot of things to offer.

I believe that both of the students learn from each other through this study tour and this friendship will bear fruit for the future.

中村 アレクサンダー 亮二 NAKAMURA ALEXANDER RYOJI (引率教諭)

Our student learned many things through this 2 weeks study tour. How hard to communicate in English, differences between the U.K. and Japan, how wonderful Japan and the U.K. are, and so on. To know about many things like culture might be good influences for students. Based on these experiences, I hope that students look outside the country and come up much more big persons.

Finally, I want to thank to BSDC college teacher, student and my host family, Mike and Kulvinder.

派遣を終えて

私がイギリスのホームステイに行くのは2回目でした。前は、中学生の時にきました。自分の英語能力の未熟さを感じ、3年間勉強しました。今回は初めてではないので、とにかく沢山のひとと沢山話すことが第一の自分の課題だと思い2週間過ごしました。大学の先生や、一緒にご飯を食べてくれる生徒会の方、説明をしてくださった方、お店の人、そしてホストファミリー。日本の派遣メンバーの中で一番だと自信があるくらい、沢山のひとと話し、沢山感じるがありました。

家では、家族みんなが忙しく、すれ違うことが多かったのですが、ホストファミリーのメガンとは、いろいろな話をしました。学校の事や、恋愛の話までしてくれました。メガンは私と同じように、音楽が大好きで、一緒に One Direction や Taylor Swift、Justin Bieber などを踊ったりしながら歌いました。音楽をきっかけにすぐに仲良くなりました。SNS をお交換して、学校の休憩時間には、写真を送りあっていました。2人とも高校生ですが、おもちゃの銃で遊んだり、ショッピングモールでは、どのチークが似合うか悩んだり、夜は一緒にドラマを見ました。中身は国によってかわるわけではないようです。

BSDC では、先生、一緒にお昼を食べてくれた、スタッフの子や、料理を教えてくれた生徒、スポーツを教えてくれた生徒、一緒に絵を描いた生徒、フィッシュアンドチップスのお店を教えてくれた生徒、TOYOTA の生徒など沢山のひとと出会いました。親切な人が多く、分かりやすい英語で話してくれる人が多かったし、一緒に料理やスポーツ、作品を作り、昼食を食べたので、自然と仲良くなりました。毎回、将来の夢について質問され、逆に将来の夢を聞くと、すぐ返



てくることに驚きました。日本では、高校生の時に夢がないのは普通で、大学生になっても夢が定まっていない人が多いと思います。理由は、日本と違い、専門の学習を始めるのが早いからだだと思います。早くから夢を見つけなきゃいけないのは、難しいことかもしれませんが、早くから夢という目標に向かって勉強するほうが、モチベーションも上がるし、やる気も上がると思うので、良いことだと思いました。また、大学では、私服なのでどの子もおしゃれでした。日本は、女子大生はこんなような髪型で、今年の流行りはこの服で、どの人もそんなに変わらないしむしろおそろいの服を着たりまでしますが、イギリスは逆に髪の色や目の色、肌の色がそれぞれ違うように、ファッションも個性があり、それが日本人の私にとって、本当におしゃれで羨ましく見えました。

そして、もう一つの課題は前回のホストファミリーに会うことです。休日に家まで迎えに来てもらい沢山泣いて、笑って、歌って踊って、遊びました。一番の思い出です。一番上の子は、日本に来た時にもあったので3回目ですが、まるで本当の家族のように私を愛してくれて、歓迎してくれました。私のために部屋を飾り、豪華な食事、ケーキは3種類もありました！ダンスやピアノ、ヴァイオリンを演奏してくれ、帰りの車では、私の好きな歌をみんなで泣きながら歌いました。本当にいい時間だったし、言葉の壁は一切感じませんでした。こんなに広い地球の中で、出会えたことは奇跡だし、これからも大切にしたいです。



この派遣を通じて、沢山の人の人に出会いました、その縁を大切にこれからも仲良くしたいですし、関わった全ての人に感謝したいです。ありがとうございました。前回と今回のホストファミリーにまたイギリスに戻ることを約束したので、これから、また会った時に、褒められるように英語をもっと磨きたいし、人としても成長したいです。

この派遣の応募を見た時、前回の海外派遣でイギリスの習慣や文化を日本に持って帰ってくることはできたけれど、日本、そして豊田の良さを伝えることができなかった。その悔しさを意味あるものに変えたい。そう思ってこの派遣に応募しました。ホストファミリーはどんな人だろうと、楽しみと少しの不安を抱えつつ学校に向かいました。私の名前を呼び、笑顔と暖かさ溢れる雰囲気であげてくれた Smyth ファミリーを見て私の中の不安は消え、これから2週間どんな日々を過ごすのだろうと胸の高鳴りを覚えました。

しかしたくさん話しかけてくれるものの英語がなかなか聞き取れずうまくコミュニケーションが取れませんでした。2週間本当に大丈夫だろうかとまた不安になりました。感謝したいのに“thank you”しか出てこない。伝えたいことは山のようにあるのに伝えられない。このもどかしさを感じもっと英語を話せるようになりたいと強く思いました。また普段から英語を口に出すことの大切さも身に染みて感じました。

さらに私は始めの頃自分の意見をはっきり言えませんでした。もちろん英語のスキルは重要だけど、何より1番大切なことは自分の意見をしっかり持ち、伝えようと努力することだと感じました。日が過ぎるにつれて自分の意見をしっかり言えるようになり、うまくコミュニケーションがとれるようになってきました。この時感じたのは、私達は決して言葉だけで繋がっているわけではないということです。私の不慣れた英語を理解しようと一生懸命耳を傾けて聞いてくれたホストファミリーと私は心で繋がっていました。Smyth ファミリーは私に人と人の間に国境はないのだ、ということを教えてくれました。毎朝起きるとよく眠れた？と気遣ってくれ、夜ご飯の時には今日1日どうだった？と聞いてくれました。毎日笑いの絶えない日々でした。私と Honour のためにたくさんのイギリスの伝統料理も作ってくれました。この家で Smyth ファミリーと過ごした時間はどれも私にとってかけがえのないものです。少しホームシックになってしまい、寂しかった時も優しく抱きしめて“your family will always be there when you get back. Enjoy your time here!”と声をかけてくれました。別れの際、イギリスに来た時にはぜひうちにおいでねと言ってくれ一層この家を離れたくないという思いが強くなったのを覚えています。2週間という短い時間でしたが、私はイギリスに新たな家族ができた気分でした。Smyth ファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。



また BSDC の生徒との交流も私の中の大きな財産となりました。彼らとは英国料理の調理実習やクリエイティブ・メディア・ワークショップで交流しました。同年代の彼らはすごく大人に見え、考えや行動に圧倒されることも多々ありました。彼らは自分の将来としっかり向き合っており、それぞれ自身の夢を持っていました。そして彼らとの交流の中にも日本とイギリスとの違いはたくさんあり、それら1つ1つを発見するたびに相手への敬意、日本への誇らしさを感じました。そして今回の派遣の最大の目的である日本、豊田の良さをイギリスに広める。これについては、昼食の時にパンフレットを使って桜や紅葉の美しさを伝えることができました。また家では、Eugene がラグビー好きということもあり豊田スタジアムの紹介もしました。2019年に開催されるラグビーワールドカップにぜひ行きたいと言ってくれました。他にも食事の前にはいただきます、ごちそうさまと私が言っていると家族も真似してくれ、毎食みんなで言いました。また東日本大震災のことについても話しました。被災者は今大丈夫なのかと聞かれ、現状を伝えられる限り伝えました。仮設住宅で暮らしている方々が未だにいることにとても驚いていました。あまり報道されなくなってきた今、このようなことを伝えるのも私たちの使命なのだと強く感じました。

この派遣を通じて学んだこと。それは私たちは心で繋がっているということです。今回の派遣で生まれた繋がりを大切に、この経験をこれからの人生の糧にしていきます。

今回の派遣で市役所の方々、引率の先生など多くの方にお世話になりました。また研修の時から共に頑張ってきた16人メンバーは私の中の大きな支えでした。このメンバーでイギリス派遣に参加できたことを嬉しく思います。日本で応援してくれた先生方、友達、家族。ありがとうございました。生涯忘れることのない素晴らしい経験をさせていただいたことへの感謝の思いを忘れず、また新たな事へチャレンジしていきたいです。



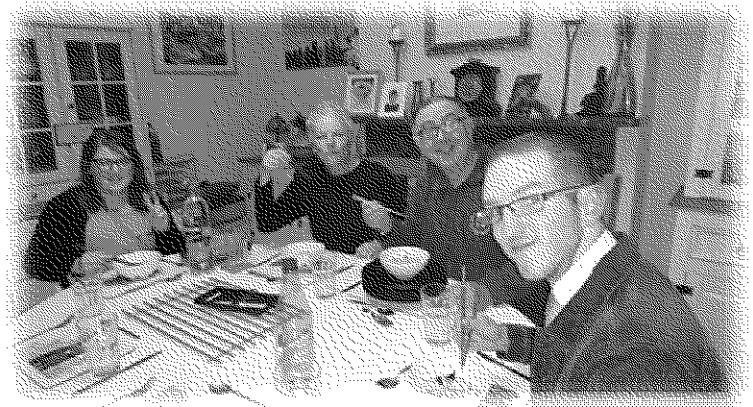
今回、私は「アメリカ英語とイギリス英語の違いを知る」「コミュニケーション能力を向上させる」という2つの目標を立て、この派遣に参加しました。

優しい笑顔の素敵なホストファミリー、レンガ造り3階建てのお家が出迎えてくれました。生活に支障がないように気配りされたかわいい部屋が2つ用意されていて、ホストファザーAndrewの「誰がどの部屋を使うのかバトルして決めて」との軽いジョークで私のホームステイが始まりました。その言葉でそれまでの不安と緊張は瞬間に消えホストファミリーとの距離が一気に縮まり、今から始まる13日間は素敵な時間になると確信しました。



家からBSDCまでは徒歩で20分程、信号機がない道を横断するときは、ハラハラドキドキ小さな冒険の始まりでした。BSDCに通っているホストシスターMaddyと一緒に行きました。学校への行き方が不安だったときMaddyは授業がないにもかかわらず一緒に学校まで歩いてくれました。Maddyはcateringについて学んでいてとても料理が上手です。家でも食事の後にデザートやケーキを作ってくれました。とてもおいしかったです。ホストマザーClaireは、いつもおいしいイギリスの伝統料理を作ってくれました。イギリスの料理はおいしくないと思われがちですがとてもおいしかったです。

研修中は仲間と日本語で会話し、英語に触れる機会が少なかったのでホストファミリーと英語でのコミュニケーションを積極的に取るように心掛けました。Claireに「Kahokoとおしゃべりは楽しい。素敵な時間をありがとう」と言われたときは英語で意思疎通が図られたことに喜びを感じました。また、日本食を紹介したいと思い、うどんを作りました。慣れない箸を使い食べにくそうだったので「フォークで食べていいよ」と言ったら「大丈夫、日本スタイルの箸で食べたいの」と言って一生懸命箸で食べてくれました。口に合うか不安でしたが「おいしい」と完食してくれ、日本食が受け入れられとても嬉しかったです。



ロンドン日帰りツアーでは大英博物館へ行きました。たくさんの展示物があり、どこに何があるのか分からなかったけど聞いたりして“ロゼッタストーン”や“モアイ”や“パルテノン神殿の彫刻”などを見ることができ感激しました。あの有名な“ガーガーバード”は予想していたものとは違っていただけで購入することができて良かったです。ずっと見たいと熱望していた“ビックベン”も見ることができました。あまり時間がなく足早に過ぎたロンドン観光でした。いつかまたゆっくりと訪れたいと思える素敵なお家でした。

出発前に知らされたホストファミリーは Post Only で連絡が取れず、出発直前のセントレアでは、ホストファミリーの変更を言われ、不安な気持ちで始まった派遣でしたがとても素晴らしい14日間を過ごすことができました。それはホストファミリー・両親・仲間そしてこの派遣をサポートして下さった多くの方々の支えがあったからだと思います。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。この経験を今後の生活の糧とし英語の勉強に励みたいと思います。有難うございました。



今回、この派遣に参加するにあたって私は英語力を上げる事を目標に参加しました。イギリスへ行く5ヶ月前から語学研修があり、イギリス独特の英語や文化、人間性についていろいろ勉強しました。

5ヶ月間の研修が終わり、派遣当日は家族、先生方に見送られイギリスへ出発しました。12時間という長い飛行移動をし、イギリスに着きました。着いて早速BSDCへ向かいホストファミリーと対面しました。事前にメールでやりとりをしましたが、緊張感が少しありました。その後、各家庭へ行きイギリス生活が始まりました。

翌日はホストファミリーと自由行動で自宅の近くの広いスーパーへ行きました。イギリスのスーパーで驚いたことは、見渡す所にイギリスの旗のマークがあったことです。その他にも日本と違って食べ物の量が多かったことです。その後、家へ戻り次の日に向けての準備をしました。

私はイギリスへ行く前はどの外国人が英語を勉強しても大体の会話が出来るかと思っていましたが、実際のところ違っていた事に気付きました。英語とポルトガル語は似ていますが、単語によっては意味と発音が違い、少し難しい面もある事に気付きました。

これをきっかけに高校を卒業し、専門でもこの体験を忘れず今以上に英語を勉強し英語力を上げたいと思います。



私がこの派遣に参加したきっかけは少しでもイギリスの文化や日本との違いを学び、英語が上達できるようになりたいと思ったからです。

日本を出発しBSDCにてホストファミリーと対面しました。ホストマザーの車で家へ向かう途中、とても緊張していて自ら積極的に話しかけることはできませんでした。ママから質問されても話すスピードが速すぎて聞き取れずあいまいに「YES」「NO」でしか答えることしかできませんでした。このとき2週間やっていけるのか不安でいっぱいになりました。家に着き中に入り日本では当たり前を靴を脱ぎ部屋に入りますが、靴のまま入っていて文化の違いを実感しました。初めは靴のまま入っていましたが普段の生活はスリッパで安心しました。次の日はホストファミリーとの自由時間でした。どこに行くのか全く分からず車に乗り出発しました。車は、そこまでスピードを出していなくても速く、怖さを感じました。また道路にはたくさん車が停まっており路上駐車が普通にされていました。教会のような場所に行きそこで話を聞いたり歌を聞いたりしましたが英語での説明がとても難しく意味が全く分かりませんでした。2時間ほどそこに滞在し家に帰り、ペットのサミーと散歩をしました。ママはすれ違った人と挨拶や会話をしていてもフレンドリーだなと思いました。

初めてのBSDC。校舎の広さときれいさに感動しました。授業の内容は思っていたものよりも簡単でゲーム形式も多く面白かったです。ただ日本の生徒だけの授業なので日本語をたくさん話してしまいました。大学での昼食はとても美味しかったです。炭水化物が多くお腹がいっぱいになりました。午後からは大学の近くを徒歩で見学しました。お店がたくさん入っている小さなショッピングモールやスーパーマーケットもあり時間があるときは行きたいなと思いました。次の日、朝食でシリアルを食べましたが牛乳が日本と違い味が薄くあまり美味しくなかったことを覚えています。大学に行くためにバスを使うので朝、時間に間に合うようにバス停に行きました。私たちが乗るバスの番号をママから教えてもらっていたのでそのバスを待っていましたが約1時間待ってもその番号のバスが来ることはなく不安が高まりました。友達とどうするか考えこのまま待っていたら大学に遅れてしまうと思い一旦家に戻りました。家にまだママがいて事情を説明したら車で送ってくれることになり安心しましたが迷惑をかけてしまい申し訳なかったです。私たちが落ち込んでいるとママは「Don't worry」など励ましてくれ涙が出そうになりました。ママが送ってくれたおかげで集合時間にギリギリで間に合い安心しました。夜ご飯はペアの子と日本から持ってきた食材などで日本食を作りました。おにぎりや味噌汁を作り3人で一緒に食べました。私たちにとってはまだ4日しか経っていないのにとてもなつかしく感じお米の美味しさを実感しました。ママは日本食に対して美味しいと言ってくれ作った私たちはとても嬉しかったです。

私がこの派遣の中で印象に残っている場所は二つあります。1つ目は、「英国トヨタ自動車バーナストーン工場」です。実際に作業している現場を生で見ることができました。なかなか入ることができない場所らしくもちろん写真撮影はいけませんでした。大勢の外国の人がトヨタにかかわっていると思うと本当にトヨタはすごいと実感しました。働いている人はほとんどの人が笑顔でフレンドリーでした。1つの車を作るのに約750もの工程があるなど初めて聞くこともたくさんあり驚きました。2つ目は「ロンドン」です。BSDCからバスで約3時間かかり到着しました。ロンドンは本当に人が多く人酔いをしてしまうほどでした。初めて生で見る建物の迫りに圧

倒されました。



BSDCの生徒と一緒にいる活動は、とても楽しく良い交流になりました。1番印象に残っている活動はアフタヌーンティー体験です。初めにテーブルセッティングの仕方を教えてもらいながら設置しました。今まできちんとやったことは1度もなかったため何も分からない私に優しく教えてくれました。次に料理を一緒に作りました。ペアを作り私はキャロットカップケーキを作りました。カップケーキ自体の作り方はとても簡単でしたが飾り付けが難しかったです。料理を作る方の生徒は、女子より男子の方が人数が多く驚きました。とても楽しく交流ができていい思い出になりました。

私は、派遣に行く前2週間やっていけるのか自信がありませんでした。英語を話すことも聞き取ることもあまりできず不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーや関わってくださった先生、何より友達の支えがあり2週間ホームステイができたと思います。私にとってこの派遣は大切な経験であり幸せな時間でした。この派遣を通してたくさんの人と仲を深めることができました。一緒に派遣に行ったメンバー・家族・支えてくださった人への感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



Have you sent an e-mail to your family? No, not yet.

始めはこれくらいの英会話が精一杯でした。ホストファミリーの英語のあまりのスピードの速さと訛りに、自分の英語力で通用するのか不安になりました。単語や簡単な応答しかできずイギリスに来て英語力が成長してないと感じたこともありました。

I'm really grateful for the invite, but I don't like dance. 丁寧に断る表現は、研修で習ったことなのに頭からすっかり抜け落ちていて断れず、結局連れて行かれたのも今ではいい思い出です。

中部国際空港でホストファミリーの変更が急に知らされたため、十四時間のフライトは不安に満ちた長いものでした。バーミンガム空港での入国審査では対策を立てていた旅行の目的や期間、滞在先についてはあまり聞かれず「大学からの招待状は持っているか？」団体のため個人では持っておらず、先生もすでに通過しており助けを求めることもできず審査官には渋々入国を許してもらえました。空港から一歩外に出ると、見慣れない車の数々やあちこちで飛び交う英語に、ついにイギリスに来たのだと実感がわき、頑張ろうという気持ちになりました。事前にメール交換できず、ただただ不安だった僕に、ホストファザーの Mike は優しく接してくれ、スーツケースを車に入れるのを手伝ってくれました。大学のあるバートンではなくそこから一時間ほどのダービーという街に家がありました。家に着くと奥さんの Kulvinder さんがご飯を作って待っていてくれました。滞在中、二人とも一杯話しかけてくださり、大きなショッピングセンターや古代の城、ダンスパーティに連れて行ってくださり、どれも貴重な体験になりました。夫婦は二人ともソーシャルワーカーで、恵まれない子供達のために一生懸命働いていると教えてもらいました。奥さんはインドの方で、時々食卓に出るカレーとチャパティがとても美味しかったことが強く印象に残っています。



イギリス滞在中に訪れた場所で最も印象に残っている場所は、クロムフォードミル紡績工場です。派遣前から世界史で習った産業革命について興味があり、事前に調べてはいましたが、それ以上に良い話が聞けました。当時の工場では、賃金の安く済む女性や子供を長時間劣悪な環境で労働させていたと習いましたが、クロムフォードミルは違っていました。他の工場と比べ賃金は高く、子供に教育を与えたり、居住区に大工や医者がいたと知り、驚きま

した。効率よく仕事を進めるには福利厚生が大事なのだと感じました。また工場の外側は当時のままの建築物も多く囚人を拘留しておく留置所や井戸も見学しました。

派遣前から楽しみにしていたロンドンツアーが十九日にありました。大学からロンドンまでバスで行き、大英博物館を見学しました。博物館ではエジプトの古代史が刻まれたロゼッタストーンや、ミイラの石棺などを見ることができました。また日本人観光客も多数いてちらほらと日本語も聞こえてきました。地下鉄で移動し、ビッグベンやロンドンアイの写真を撮った後、バッキンガム宮殿に行きました。バッキンガム宮殿にはイギリス国旗が掲揚されており国旗が上がっているのは女王が宮殿に戻っていることを示すと大学の先生に教えていただきました。通りでは、スコットランドの伝統衣装キルトを着たバグパイプ奏者の演奏も聴けました。その後ハロッズで買い物をしました。ハロッズはデパートの発祥であるためか、とても混雑していて、内装もエジプトをモチーフにした柱があったりと見るだけでも楽しめました。

今回の派遣は、本物の英語を体験するいい機会になりました。相手の言っていることがわかって言葉や文法がずっと出て来なく、単語を並べるだけになったり、間違いも多かったです。その反面、文法的に正しい表現で伝えられた時の喜びは格別でした。また日本とイギリスの文化や考え方の違いから日本が治安的に安全であること、物事の処理が正確であることを学びました。今回のイギリス派遣で学んだことを活かして、英語のスキルを高めたり、コミュニケーション能力を磨き、いつかもう一度海外に行きたいです。



派遣を終えて僕の心に強く残っていることは、英語で自己表現することの難しさやイギリスと日本の違いがたくさんあり驚いたこととかではなく、ただシンプルに「どこにいようと、誰と生活しようと、何をやろうと、一番大事なのは自分なんだ」と学んだことです。

イギリスに行く前は、言語についてや、人とのコミュニケーション、お土産のこと、カルチャーショーのことなどいろいろな不安を抱えていました。実際イギリスへ行き、初めはいっぱいいっぱいなこと多くて必死だったけど、1日1日生活していくにつれて自分がどうあるかで世界が変わることに気付きました。自分の思うことを率直に伝え、自分の判断で行動することが大切だと思いました。それからは、「自由」を実感しながら1日1日が楽しくて仕方がなかったです。

僕は日本から出たのは初めてだったのですが、13時間ほど空の旅を楽しむと国が変わり、言語が変わり、歴史や文化まで変わってしまうから世界は面白いと思いました。さまざまな文化が混ざりたくさんの国の人が生活していました。海外の人は、日本人と比べると同い年にも関わらずとても大人びていて、身長も高く驚くことばかりでした。

今まで生活してきた世界がとても小さく感じられ、自分の可能性を無限に感じました。



～イギリスでの生活について～

僕がホームステイしていたところは、ダービーだったので周辺には集合住宅や牧場、公園などしなく信号はほとんどありません。BSDCのあるところから家に帰る途中には牧場ゾーンを通るのですが、街灯はほとんどなく真っ暗です。

道路や交通ルールの違いにも驚きました。交差点では、信号が無い代わりにラウンドアバウトと呼ばれる環状交差点があり、みんな一方向に（左側通行の場合時計回り）に走行していました。ラウンドアバウトとは、安全のためや遅れ改善のために設置してあるようです。

日本では信号という言わば絶対的な存在が常に車や人をコントロールすることで効率よく交通が行われているのですが、ラウンドアバウトではタイミングを自分の判断で行わなければいけなくて大変そうでした。

食事や食べ物についても、日本での日ごろの生活とは異なることばかりでした。ご飯は UK ライスを食べましたが、日本のお米より細長くパサパサとしていてあまり得意ではありませんでした。朝ご飯は主にサンドイッチ、トースト、フレークなどで、食べない人も少なくは無いみたいでした。最初はチョコ味でおいしく感じていたフレークですが 3 日もすると飽きてきて、持参したインスタントの味噌汁でお腹を満たしていました。



また、買い物についても色々新しい経験をしました。ASDA へ計 5 回お買い物に行きました。イギリスのスーパーは、買い物かごとカートがあるのは日本と同じですが、カートを使うにはお金がかかります (1 ペンス程度)。レジでは、ゴム製で滑りにくいベルトの上に客がかごから一つ一つ並べ、定員さんはセンサーに通していきます。通し終えた商品は客が持参した袋に自分で入れて行きます。前の人と次の人を区別するために機械的に仕切るものがあり自分の商品を置き終わると、定員さんがベルトから商品を順番に手に取ってバーコードを読み取らせませす。店員さんが一つの商品を手にとると重さ (軽くなったこと) を感知し自動的にベルトが少しずつ前へ動くシステムでした。

～まとめ～

僕は、このダービーシャー高校生派遣を通して、英語の大切さ、人と関わることの素晴らしさ、日本の素晴らしさの再確認、新しい自分の発見 (今自分に足りないものなど)、人への感謝の気持ちなど、多くの大切なことに気付きました。

行きたいから行けるものではないし、親や学校、市役所の方々、去年行った先輩方、市長さん、旅行会社さんのおかげで行けたことを実感しています。

忘れられない素晴らしい思い出になりました。皆さんに感謝します。

私は中学生の時に海外派遣に行かせていただき、高校でもこういう機会があれば絶対に参加したいと思っていました。だから、イギリスに行くことが決まった時は本当にうれしかったし、私以上に家族や友人が喜んで祝福してくれました。

1 1月からの約4カ月間、毎月2回事前研修が行われ、イギリス英語やイギリスの歴史、文化



を学びました。研修を重ねていくうちに派遣の仲間と仲良くなっていき、最初に抱いていた人見知りがある私に友達ができるのか、英会話が苦手な私はイギリスで生活していけるのかという事前研修や海外派遣に対しての焦りや不安が、だんだんと期待や楽しみへと変わっていききました。

そして、あっという間にイギリスへ行く日がやってきました。準備は妹が手伝ってくれて、家族や友人がメッセージをくれて、集合時間が早かったにも関わらず集合場所の神田公園まで

母と高校の教頭、担任が見送りに来てくれました。たくさんの応援の中、中部国際空港から成田空港、オランダのアムステルダム空港、イギリスのバーミンガム空港まで、約15時間のフライトを終えてホストファミリーと対面し、私の2週間のイギリス生活が始まりました。

初めはホストファミリーが話すイギリス英語が全くと言っていいほど聞き取れなかったため、返事はyesかnoばかりで会話がままならず不安でした。しかし、ホストファミリーと生活したり、BSDCで生徒と交流したりするうちにだんだんと聞き取れて会話が成り立つようになり、イギリスでの生活がさらに楽しくなりました。

イギリスでの2週間はさまざまな建物を見学してイギリスの歴史や文化に触れたり、BSDCで生徒と一緒に授業を受けたり、放課後に派遣の仲間とカフェやショッピングに行ったり、ずっと楽しみにしていたロンドンを観光したり。学校では派遣の仲間やBSDCの先生や生徒と、家ではホストファミリーやペアの子と過ごす毎日は本当に充実していて楽しかったです。そのおかげでホームシックになって泣いてしまうようなことはほとんどなく、毎晩泣いていた中学の海外派遣の頃の自分よりも少しは成長したのかなと感じました。



そんな充実した2週間の中でも特に印象に残っているのはやっぱりホームステイです。私のホストマザーは優しくて明るくてよく笑う元気な方でした。家からBSDCまで車で20分ほどかかるのにいつも車で送り迎えしてくれたり、私が疲れていると心配してリラックスできるティーを作って私の部屋まで持ってきてくれたり、今日はどうだった？おなかすいた？今から洗濯する？などたくさん聞いてきてくれて、まるで本当の子供のようにかわいがってくれました。私もホス

トマザーのことを Mum と呼んでいたのが、イギリスに新たな母ができたようでした。平日は一緒に夕食を食べてお話ししたり、テレビを見て笑ったり、休日は出かけたりして1泊のホームステイを楽しみました。お別れの日は朝早かったのにBSDCまで送ってくれて、私たちが空港に向かうバスに乗り込む最後の最後まで一緒にいてくれました。



私がこの2週間のイギリス海外派遣を通して学んだことは大きく2つあります。1つ目はイギリスの文化です。特に食文化は日本と大きな違いがありました。他にも建築物や言語、宗教なども学ぶことができ、やはり、外国の文化と日本の文化とを比較するのはおもしろいと思いました。2つ目は感謝の気持ちです。私はたくさんの人に支えられていたからこそ、こうしてイギリスに行くことができたのだと日本を離れてみて改めて感じました。私を支えてくれたすべての人たちに感謝の気持ちを忘れずに、この貴重な経験を生かしてこれからは自分の将来のためにがんばっていきます。本当にありがとうございました。

人生初のイギリス ～高校生派遣～

永松 サユリ

私は最初、先生からこの高校生派遣の話聞いたときは正直あまり興味がありませんでした。でも、去年行った先輩からこんなところ行ったよとかあんなところ行ったよとかあれが楽しかったとかいろんな話を聞いて楽しそうだなあと少しずつ興味を持つようになり今回の派遣に参加することを決めました。初めての研修は知らない人ばかりで仲良くなれるのかなあと少し不安がありました。先生はイギリス出身のエドワード先生とカレン先生とジャマイカ出身のタフ先生の3人で研修を行っていました。最初の研修では、学校で習うような基本的な英語を教えてもらいました。後にイギリス英語とアメリカ英語の違いとかイギリスと日本の違いとかもしもパスポートを無くしたときとかに使う英語や飛行機で使う英語のスキットを自分たちで考えたりなど他にもいろんなことをやりました。

毎回研修のはじめにその前にあった研修の復習をしたりつひとつ丁寧に行われました。全部で9回の研修があって今まで知らなかったこととかもたくさんあって本当にいろんなことを学ぶことができました。

私は今まで1回しか海外へ行ったことがなかったので、毎研修早くイギリスに行きたくなっていました。最後の研修が終わったときは出発まであと1週間で、すごくワクワクしてたのと同時にテレビで飛行機が墮ちたり、ハイジャックされたりするのを見たことがあったので怖い思いもありました。

荷造りも自分でやったのが初めてでなにをどれくらい持っていけばいいのかわからなかったし、帰ってくる時のお土産の分量も考えないといけないので大変でした。なんとかまとめてから家で重さを計ってみたら23kgには収まってたけど、空港で計ったら27kgでびっくりしました。でも、特になにも言われなかったのでよかったです。成田か

らアムステルダムまで11時間かかりました。飛行機の中ではインターネットが使えないとで退屈だろうなあと考えてたけど、実際はいろんな映画やゲーム、音楽も聴けました。私は映画3本くらいみました。もっと見たかったけどあと3、4時間くらいおのときにヘッドホンの充電がなくなって見れなかったし音楽も聞けなかったので退屈でした。アムステルダムに着いたらお店もアナウンスも全部英語で「本当に海外だ…」と思いました。空港のトイレを使ったとき流し方がわからなくて、1人で焦ってました。最終的には流せたのでよかったです。笑

アムステルダムからバーミンガムについてからバートンまでは合計で2時間くらいだったのであまりつかれませんでした。

BSDCについてからホストファミリーに会いました。どんな人なんだろうとか怖い人かなとか考えてたけど、とても優しい方でした。モニカという方で、息子が1人いるけど別のところで暮らしているの1人で暮らしていました。日本からのお土産で小銭入れ、ストラップ、抹茶のチョコ、せんべいを持っていきました。私はブラジル人なので親がブラジルのものも持っていきなよと言ったので、ブラジルのコーヒーとチョコも持っていきました。息子さんには日本の地図を絵で書いた掛け軸とストラップを持っていきました。

2人とも喜んでいたのでよかったです。

あと、ベッキーとリリーという猫が2匹いました。ベッキーはあまり人懐っこくないけどリリーはベッドで横になってるとお腹に乗ってきたりとても人懐っこくて可愛かったです。着いて1日目はホストファミリーと過ごす日で、この日はモニカとスーパーへ買い物に行きました。イギリスのスーパーはすごく大きかったです。驚いたのがイースターの卵の形をしたチョコが壊れててそれを開けられて食べられていたのがびっくりしました。

思わず、ひとみに「日本ではありえんな…」と言ってしまいました。笑

前にツイッターでみたオレオのアイスサンドがあつてすぐにカートにいれちゃいました。他にもピザやケーキ、ワッフルなどいろんなものを買ってもらえました。どれもおいしかったです。BSDCの授業では、生徒さんたちと料理したり野外活動、美術の授業とかもしました。とくに、たのしかったのは野外活動です。マウンテンバイクに乗ったり、サッカーしたり、筋トレもしました。この日はめちゃくちゃ疲れたけど、充実した1日だったのでよかったです。カルチャーショーも印象に残りました。少しトラブルもあったけど、みんなの練習の成果が出せたのでよかったです。カルチャーショーのあとはホストファミリーと一緒に学校で最後のディナーをいただきました。イギリスで過ごす最後の夜だったのでそれまでのことを思い出したら日本に帰らないといけないうのが寂しかったし、ホストマザーとももう会えないと思うと泣いてしまいました。本当に長いようで短い充実した2週間を過ごすことができました。

今回の派遣に参加していろんなことを学べたので今後の生活にも活かしていきたいです。これからもっともっと英語力を高めて他にもいろんな国に行きたいです。

1、派遣前

僕がこの派遣を応募するにあたって、2つやりたいことがありました。

1つ目は、自分の英語がどのくらい外国人に通じるのかチャレンジすることです。普段から、英会話の勉強を欠かさず、もっと流暢に話せるようになりたいと思い、努力を積み重ねてきました。平日、僕が学校にいる間、毎日約15分と短い時間ですがALTの先生と日常会話をしてきました。また、運のいいことに、先生がイギリス出身だったこともあり、派遣に参加することが決まってからはイギリスについてのことも質問して生のイギリス英語を聞きながら知識を増やしていきました。一方、休日は、土曜日と日曜日両方ともに英会話サークルに通って英会話のスキルアップに努めてきました。さらに、11月からは、語学研修も始まり今まで以上に英語を話す機会も増え、時間がたつにつれて自信をもてるようになりました。

2つ目は、イギリスの歴史や食文化や生活様式を実際に触れたり目で見たりして学ぶことです。この派遣に参加する前まで一度も日本から外へ出ることはありませんでした。だから、産業革命というような歴史や外国の様子は、学校の教科書やテレビ番組でしか学ぶことがありませんでした。また、食べ物のことやどんな生活を送っているのかも、全然とっていいほど知りませんでした。

2、派遣中での出来事とそこで感じたこと

〈ホームステイ〉

対面する前、僕は、ホストファミリーはどんな人なのか不安ばかり思っていました。しかし、実際に会ってみると、温かく迎え入れてくださり既に夕食も用意していました。その時、気持ちも楽になり、これからの生活も楽しみになってきました。自分を受け入れてくださったホストファミリーは、父 Nitesh さん、母 Shweta さん、娘 nishika の三人家族でした。

両親は、娘の面倒を見るのに大変だったのにも関わらず、僕と荒賀君にまで気を使ってくれるとても優しい人たちでした。食事中も会話が弾んで休日にも一緒に買い物に行ったり、ピクニックに連れてって来て、たくさんの思い出をつくるのが出来ました。最後の日、別れるのが本当に辛く感じました。



〈BSDC〉

僕たちは、Burton and South Derbyshire College (バートン&サウスダービーシャーカレッジ) に約 2 週間通いました。ここでは、林業センターでの野外活動や英国料理とアフタヌーンティー、それからカルチャーショー及び夕食会などをしました。どれも貴重な体験となり、良い思い出を作ることが出来ました。

野外活動では、サイクリングや広い芝生でフットボールなどをして一日中体を動かしました。久しぶりの運動ということもあってヘトヘトになりました。翌朝は、体全体が筋肉痛で起きるのに大変な思いをしました。

英国料理体験では、一人につき一人のバディがついてくれて指導してもらいました。自分は、普段料理をしないので、緊張と不安ばかり感じていました。実際に体験しているときに、「もっと早く混ぜて！」と何度も指摘されましたがちゃんと作ることが出来てほっとしました。

アフタヌーンティー体験では、何種類もある紅茶やカフェラテを飲みました。日本の紅茶やカフェラテに比べて香りが強いですが、飲みやすく感じました。特に、僕にとって English tea と呼ばれるストレートティーが美味しく感じ、つい何度もおかわりをしてしまいました。また、ホストファミリーの家でも飲んでいました。

カルチャーショーでは、一日かけて練習やリハーサルを行いました。練習中、アクセントが大丈夫か心配になって引率教諭の先生に質問して確認しました。そして、カルチャーショー本番、たくさんのお客さんに注目されながらも、囁むことなくスムーズに発表出来ました。その後の夕食では、ホストファミリーと会話をしながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。





3、派遣後

今回の派遣を通してたくさん経験をすることが出来ました。特にホームステイは、僕にとって一番貴重なものになったと思います。普段、友達や先生、家族とコミュニケーションをとるときに心配することは何もありませんでした。しかし、英語に囲まれた生活を送っている間、相手の言いたいことが理解できなかったり、自分が言いたいことが言えなかったりと大変苦労しました。その時、もっと英語を勉強する必要があることを感じさせられました。今は、グローバル化社会が進行しているので、今後さらに英語の勉強にちからをいれていきたいと思います。最後に、この派遣の参加に同意してくれたお父さん、お母さん、こんな貴重な機会を僕に与えてくれて本当にありがとう！また、語学研修から一緒に過ごしてきた派遣団の皆、短い期間ではありましたがたくさんの思い出をありがとう！そして、この派遣団とともに同行してくれた先生方、ありがとうございました。おかげで、無事に日本に帰国することが出来ました。2週間本当にありがとうございました。

私は、今回の派遣でもっと自分の輪を広げ、普段学校で習っている英語の授業を実際に現地で使えるかどうか試してみたいと思い参加しました。またこの派遣の目標であるイギリスと日本の様々な違いも見つけることができました。

～事前研修～

イギリスでもっとも役に立った英語は事前研修で習った表現でした。事前研修では、イギリスの習慣と日本の習慣の違い、イギリス英語、有名な食べ物、ブランド、ホームステイ先で使う言葉など現地で役に立つ表現をイギリス人講師からたくさん学びました。私はこの事前研修で習った表現を今回の派遣で有効的に使うことができました。また、有名な食べ物を知っていることによって買い物のときにスムーズに買うことができました。それだけでなく、事前研修では他行の生徒との交流の場でもありました。各学校一人ずつということだったのでほとんどの人が知らなくて最初は緊張していたけど、事前研修を重ねていくうちに次第に仲良くなる事ができました。高校に入ってから他校の子と関わる機会がすくなかったのでこの派遣がきっかけで交流することができてよかったです。

～ロンドン観光～

私のもっとも楽しかったのはロンドン観光です。いつもよりすこしだけ早く起きて、ホストファミリーに学校まで送ってもらいました。初めてのヨーロッパ、初めてのイギリスだったのでとてもわくわくしていました。ロンドンについたらまず大英博物館を自由に見学しました。友達と像の前に立って同じような格好をしたり、買い物をしたりと楽しみました。また、それぞれの像の歴史や由来などを自由見学前にもらったパネルで知ることができ勉強にもなりました。そのあとは、イギリスの電車チューブを使ってビッグベンまで移動しました。電車じたいは日本と変わらないのですが、ホームに行くまでが日本よりも複雑で迷路のようでした。電車を降りると今まで写真とかでしかみたことのなかったビッグベンが目の前にそびえたっていて感動しました。ビッグベンの前ではみんなでたくさん写真を撮り合いました。ロンドンは一日じゃ足りないぐらいとても素敵な場所でもっと観光したいと思いました。



～ホストファミリー～

ホストファミリーにはとてもよくしてもらいました。あまり英語が上手でない私にゆっくりと簡単な単語を使って話してくれました。わからない単語があったら表現を変えるなどいろいろ工夫してくれました。また、ご飯のときは気を使ってくれて私の好きなメニューを聞いて出してくれました。ホストマザーの作る手料理はとてもおいしく、毎日のご飯がとても楽しみでした。イギリスの味付けの焼きそばを作ってくれた日もありました。初めての味でとてもおいしかったです。ホストファミリーと過ごす時間はとても楽しかったです。別れの時には号泣してしまいました。日本に帰ってからもメールなどで連絡をとりあおうと伝えてくれました。次に会う時まで

はもっと英語が上手に話せるようになりたいとおもいました。

～学生との交流～

二週間でたくさんの学生と関わることができました。トヨタの工場見学では昼の時間に一緒にトヨタの学生と食べることができました。最初は何から話していいのかわからなかったけど、トヨタの学生がもしもしや元気ですか？など覚えた日本語を話してくれて少し打ち解けることができました。年を聞いたらみんな年下でびっくりしました。BSDCの学生とは、イギリスの伝統料理、野外活動、美術、昼ごはん、などたくさんの関わる機会がありました。野外活動では一日運動でとても疲れましたが、イギリスに来てからの久々の運動だったのでとても楽しかったですが、筋肉痛になりました。サイクリング、筋トレ、フットボール、野球みたいなヒットボール、ゲームなどたくさんのプログラムが用意されていてとても充実した一日になりました。ゲームのルール説明は全部BSDCの学生がしてくれたので聞き取れなかったり、よくわからなかったりしたら気軽に聞き返すことができました。空いた時間には写真を撮ったり少し会話をしたりしました。ここの学生はほとんどの人が自衛隊や警察官になりたいといっていました。私も将来の夢をきかれましたがまだはっきりと決まっていなかったので答えることができませんでした。私もBSDCの学生みたいにはやく将来の夢を見つけたいと思いました。



～カルチャーショー～

私は日本の伝統的な踊りである“そうらん節”と日本の習慣の違いとイギリスの習慣の違いを劇にしてやりました。劇では挨拶の違いや玄関で靴を脱ぐのか脱がないのか、店員の対応などを発表しました。イギリスの店員の対応を発表したら会場の人が笑ってくれました。イギリスの店員の対応はあまりよくないと聞いていましたが実際は全然違って、店に入ると話しかけてくれました。そうらん節では日本で少し練習しただけだったので当日の朝に何回も踊って振りの確認をしました。発表の時には会場の人と一緒にそうらん節の掛け声をやってくれたので盛り上がることができました。



～まとめ～

今回の派遣を通して、普段の学校生活では決して学ぶことのできない貴重な体験をすることができました。イギリスに行くにあたって準備をしてくれた家族、私を優しく受け入れてくれたホストファミリー、BSDCの先生や生徒、引率の先生、都築さんや吉野さんなどたくさんの方々の協力があってこのような体験ができたことを心から感謝しています。本当にありがとうございました。

終わってみると、あっという間の研修でした。選ばれた時は信じられなくて、自分で本当にいいのかという事や、英語力に自信が無かった事など、とにかく不安しか無かったスタートでした。5ヶ月間の研修を受け、いよいよイギリスへという時はとても緊張していました。しかしいざ空港へ着くと、初めての飛行機にドキドキしたりと、日本を離れる不安は、それ以上の周りの環境の変化への好奇心に変わっていました。ついにイギリスに着き、入国審査を乗り越え、ホストファミリーと対面した時、ホストマザーの英語が驚くほど聞き取れなくて、凄く焦ったのを覚えています。一緒にホームステイした間所さんはしっかり会話を出来ていたのでおさらでした。

13日、イギリスで初めて迎える朝。起きてそうそう驚いたことは、7歳のHurryが自分でご飯を準備して、一人で食べていたことです。私の家では基本、家族が何人かそろってからご飯を食べるのでそれはとても異様に感じられました。Hurryに教えてもらい、棚にびっしり並んでいるシリアルの一つを選んで食べました。この日はホストファミリーとの自由行動だったので、Hurryのフットボールの試合を見に行ったり、買い物に行ったりしました。家に帰るとお婆ちゃんに当たるSandraさんがいました。

17日、この日は英国トヨタ自動車バーナストーン工場へ行きました。自動車の街豊田市に住んで

とても気さくな人で、緊張することもなく、自分から色々話すことが出来ました。そして一緒に昼食も食べました、しかし、この時にMeganが曲を流しながら踊り始め、つられて間所さん、Hurryと皆で騒ぎ始めました。私はMeganはクールな人だと思っていたので印象がガラリと変える出来事でした。とても楽しい昼食でした。



いる私達にとって馴染みのあるものでした。豊田との違いは自然がとても多いということです。エネルギーを17000枚ものソーラーパネルから8,000kwも取れるということと、そのソーラーパネルの中に紛れて生えている木は普通は効率のために切ってしまうが、バーナストーン工場では、自然保護のため、わざと残していると教えてもらえました。このこと以外にも、バーナストーン工場はエネルギーの見直し、削減、エコ活動という三原則を掲げ、エコに関する活動をするスタンプがたまっていくという独自のグリーンカードというものもありました。日本とイギリスの違いを見つけることのできた見学になりました。昼食の時は工場の系列の学校の学生の人達が来て、一緒に食べました。この時、たくさん英語を話すことが出来ましたが、発音の問題で聞き取って貰えない時があったので、自分の中での課題が一つ見つかりました。

19日、この日はおそらく全員が楽しみにしていたであろう、ロンドン見学でした。一番初めて行った大英博物館では、あんなに大きな博物館に行ったのは初めてでしたし、世界各国でいろいろな特色があって、とても興味深かったです。その後ビッグベン、バッキンガム宮殿など、ロンドンの美しい建造物を見て回りました。

バッキンガム宮殿ではユニオンジャックが上がっていて、ガイドの方が今エリザベス女王陛下がいらっしゃるかと教えてくれ、感動しました。日本では見られないものをたくさん見れ、充実したロンドンツアーでした。



私はこの派遣が始まる前に、自分の今持てる力を活用し、日常生活で使える英語を身につけるということを目標にしていました。そのために、とにかくいろいろな人と積極的に話そうと思っていました。この目標を達成する過程で、私は沢山の人の助けられました。にこやかに私のつたない英語を聞き取ろうとしてくれるイギリスの人達、表現がわからなかった時に教えてくれた派遣団の皆や先生、そして、この貴重な機会をくれ方々。私はその全員のおかげでいろいろな事をイギリスで学べ、目標を達成する事が出来ました。この経験を無駄にしないように、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました！



私はこの研修を通してたくさんの人に出会い、多くのことを学ぶことができました。

*・心に決めたこと

私はイギリスに行かせてもらい、たくさんの経験をすることができ、大きく変わることができたと思います。イギリスの英語は、日本の英語の授業でやるものとは違い、とても速く、癖も強いので聞きとることがものすごく大変でした。私がかうまく聞きとることができず、相手を困らせてしまうことが多くありました。またイギリスの方たちは、言い方を変えてゆっくり言ってくれたり、単語の意味を丁寧に教えてくれたりもしました。私はそれにもうまく応えることができず、笑顔でうなずいて流してしまうこともたくさんありました。また、“もっとたくさん話がしたい！”と想着いても、なかなか行動に移すことができず、ただ時間だけが過ぎていってしまうこともありました。私はすごく悔しい気持ちでいっぱいになりました。ですが、勇気を出して話をして相手が笑顔で応えてくれた時は、すごく嬉しかったです。私は、恥ずかしがっていたら、このチャンスを無駄にってしまうなど思ひ、もっと頑張ろうって思ひました。自ら積極的に行動することの大切さを知りました。

私はこの2週間で、もっと勉強をし、英語を使う機会を増やして、たくさんの外国の方たちとコミュニケーションがとれるようになろうと、心に決めました。

*・ホームステイ

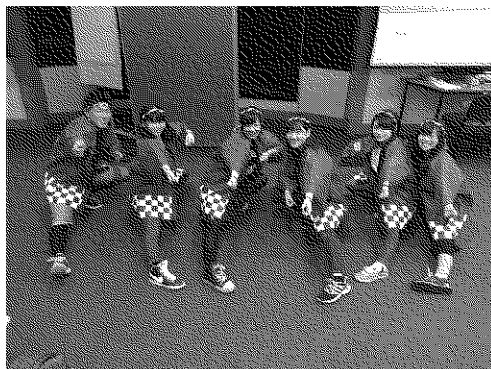
私はホームステイにより、常日頃から英語に触れ、たくさんコミュニケーションをとることができたと思います。自分の思っていることをうまく伝えることは難しいなあと思ひすることもありました。ですが、素敵なホストファミリーに出会い、たくさんお話をしている中で、お互いを知ることができました。また、人とコミュニケーションをとることの大切さを知ることができました。ホストファミリーと過ごした時間は、私にとって本当に素敵な経験でした。



*・たくさんの思い出

毎日毎日たくさんのイベントがあり、一生に一度しかできない体験をすることができたと思います。BSDCの生徒と料理を作ったり、運動をしたりして触れ合うことは本当に楽しかったです。一緒に活動することで自然と会話がうまれ、お互いの文化を知ることができたと思います。また

ロンドンツアーでは、派遣メンバーと感じたことを共感しあい、より仲を深めることができました。カルチャーショーでは、日本の文化、豊田について紹介をしました。メンバー1人1人が一生懸命練習をし、最高の発表をすることができました。会場が1つになり、達成感がありました。楽しい時間はすぐに過ぎてしまうなど感じ、これから後悔しないように1日1日を大切にしていこうと思いました。この2週間は自分にとってものすごく濃いものとなりました。一生忘れられない最高の思い出です。



＊・最後に

私はホストファミリーやBSDCの生徒と出会い、大切なことは自ら積極的にコミュニケーションをとることだとわかりました。逃げてばかりいたら何も始まらないなあと思いました。文法などが間違っているけど、相手に伝わる時は伝わったので、何もしないよりは、相手に伝えようとするのが大切なんだなあと感じました。

私はイギリスでたくさんの人と出会い、たくさん助けられました。多くの人の優しさに触れ、多くのことを学ぶことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この2週間で学んだことや悔しさなどを胸に、もっともっと成長していきたいです。

「かけがえのない経験」

倉山 沙葵

今回のダービーシャー海外派遣は中学3年生のときから知っていて、高校生になったらぜひ参加したいと思っていました。学校の代表に選ばれたときはとても嬉しくて、イギリスに行くことが待ち遠しかったです。イギリスから帰って今思うことは、本当に毎日が新鮮で、夢のようだったということです。その中でも、特に心に残っていることが2つあります。

1つ目は、ロンドンへ訪問したことです。バスでおよそ3時間くらいかけて行きました。始めに行った大英博物館はとても広くて、人がたくさんいました。世界の地域ごとに、さまざまな石像や銅像、壁画、石器などが展示されていました。限られた時間の中でも、モアイ像やミイラを見ることができて、教科書でしかみたことがなかったので貴重でした。1日中いても全部見ることは大変なくらいだと思います。次に地下鉄でビッグベンに行きました。地上に上がると目の前にビッグベンが姿を現し、圧倒されました。私は、この景色を目に焼き付けておきたいと思い、じっくり見て写真もたくさん撮りました。そして、バッキンガム宮殿に行きました。バッキンガム宮殿はとても立派で大きかったです。エリザベス女王が住んでいるのだと思うと、実感は湧きませんが、不思議な気持ちになりました。最後にハロッズに行きました。ハロッズは高級

な百貨店のようなかんで、大勢の人であふれていました。お土産のお店で、ロンドンのおしゃれな雑貨を買うことができたので良かったです。時間があればもっと見たかったです。行きも帰りも、バスの中ではみんなと色々な話をして、笑って、笑顔が絶えませんでした。ロンドンはとてもきれいな街並みで、赤い2階建てバスが走っていて、どの景色も絵になるくらい素晴しかったです。



2つ目は、ホームステイ体験です。イギリスに着いた夜、早速 BSDC でホストファザーと初めて会いました。期待と不安が入り混じる中、ホストファザー、スティーブの優しい笑顔に安心しました。家に着くと、ホストマザーのドロシーが待っていました。3階建てのとても広くてきれいなお家でした。2人が暖かく受け入れてくれて、これからのイギリスの生活が楽しみになったのを今でもはっきり覚えています。

スティーブは料理が上手で、毎日美味しい料理をふるまってくれました。イギリスはあまりご飯が美味しくない、とよく言われましたが、それを簡単に吹き飛ばしてしまうくらい美味しかったです。現地の学校 BSDCに通うときは、スティーブが学校近くのコスタコーヒーに行くのが日課のようで、25分くらい一緒に歩いていきました。通学途中にペアの七海さん、スティーブと3人で話しながら行くことがとても楽しかったです。いつもジョークを言って笑わせてくれて、寒い朝には手袋を貸してくれました。

ドロシーは笑顔が素敵で、聞き取りやすいようにゆっくり話しかけてくれました。日本語にも興味を持ってくれて夕食の時間に、「いただきます」をみんなで言ったり、その意味を教えたりしました。さようなら、ありがとうなどドロシーがスティーブに言っていて、とても面白かったです。ドロシーは朝早く出かけることが多かったのですが、学校から帰ると「Hello, girls!」と声をかけてくれました。2人とも本当に優しくしてくれて、本物の家族のようでした。恵まれているなど感じ、不安もすっかり消えていました。

また、2人のお孫さんの22歳のジョシュも一緒に住んでいて、たまにしか会えませんでした。会うとあいさつをしてくれました。ジョシュの1番下の妹、9歳のページはホームステイ後半毎日遊びに来てくれて、とても仲良くなりました。大人っぽくて、可愛くて元気な女の子でした。初めて会ったとき、ページは恥ずかしがっていましたが仲良くなりたいと思い、積極的に話しかけて質問しました。すると、段々いっぱい話してくれるようになり、「Saki!」と私の名前を呼んでくれました。部屋では家族ごっこをしたり、曲に合わせて踊ったりしました。ページはダンスが上手で、表現力の豊かさは9歳とは思えないほどでした。手紙もたくさん書いてくれて、嬉し

くて嬉しくて仕方なかったです。素敵なホストファミリーと過ごせて、本当に幸せでした。

あっという間の2週間でしたが、今まで見たことのない世界をみて学んだことがたくさんあります。話したいことが上手く話せなくて、もっと勉強して話せるようになりたいと強く思いました。いつかお世話になったホストファミリーと再会したいです。大学生になったら、もう少し長く長期の海外留学にも挑戦したいと思います。そしてこの派遣を通して、多くの人と出会うことができました。支えてくれた周りの人達、両親、友達、全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。イギリスで過ごした2週間は、私にとってかけがえのない宝物です。これから、この経験を生かして、さらに夢に向かって努力していきたいと思います。



↑ Saki ,Paige ,Nanami



↑ with BSDC の生徒

派遣を終えて

濱口 莉奈

この派遣は私にとって、初めてのホームステイでした。元々が突然な話だったので、不安でしたがホストファミリーや友達、先生のおかげで楽しんでホームステイをすることができました。

私たちのホストファミリーはクリスチャンでした。日曜日に教会へ行ったり、夜にキリストについての勉強会があったり驚くことがたくさんありましたが、とてもいい経験になりました。ホストファミリーの末っ子である Maddy の年齢が私たちと同じだったため、教会や勉強会では同い年くらいの子たちと触れ合う機会が多くありました。大学の子たちよりも会う回数が多かったため、話しやすく教会での時間も楽しく過ごせました。

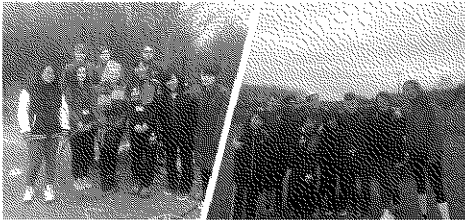
ホストファミリーは私が片言な英語にもかかわらず、理解しようと耳を傾けてくれたり、ゆっくり話してくれたりとても親切でした。ご飯も毎日のようにイギリスの伝統的なご飯を作ってくれました。とても美味しかったです。このホストファミリーと出会えてよかったと心から思いました。



BSDC では、とてもたくさんの方のことを体験することができました。中でも私が一番心に残ったのは野外活動です。理由は BSDC の生徒のみんなとかかわる時間が最も長くあったと感じたから



InstaMag



です。私はあまりスポーツが得意ではありません。ですが、ルールがとても単純でどれもやりやすく学校の中であるレクリエーションのような感覚で楽しむことができました。フットボールやベースボール・ランなど日本ではあまりやることがないものが体験よかったです。BSDC の生徒のみんなはとてもフレンドリーで話しやすかったです。種目が変わるとルール分かる？と声をかけてくれたり、うまくやれなかったときにコツを教えてくれたり、とても親切でした。野外活動をした場所はとても広く緑がとても多かったです。犬の散歩に訪れている人も多く、遊具もあったので休日には子供も多いのだろうと感じました。イギリスは国土が広いのでこのようなゆったりした場所がたくさんあってイギリスの人々の心がおおらかなのはこのような場所が充実しているからなのではないかと感じました。

この派遣でたくさんの方のことを学ぶことができました。イギリスに着いて始めのころはイメージとのギャップや英語ばかりの環境に戸惑い不安ばかりでしたが、とても充実した2週間がおくれてよかったですと感じています。この経験は自分にとって自信につながりました。この派遣に参加できてよかったですと心から思います。私はこの派遣が決まる前、英語に自信がなく、英語で会話なんて無理だろうと諦めている部分がありました。しかしこの派遣を通して英語を身近に感じることができ、英語に関する見方が変わってきました。英語が苦手だと決めつけず、もっと積極的に英語にかかわれるようにしたいと思います。これをきっかけにさらに英語を勉強して、イギリスを訪れた時、ホストファミリーと再会できる日を目標にして頑張っていきたいです。



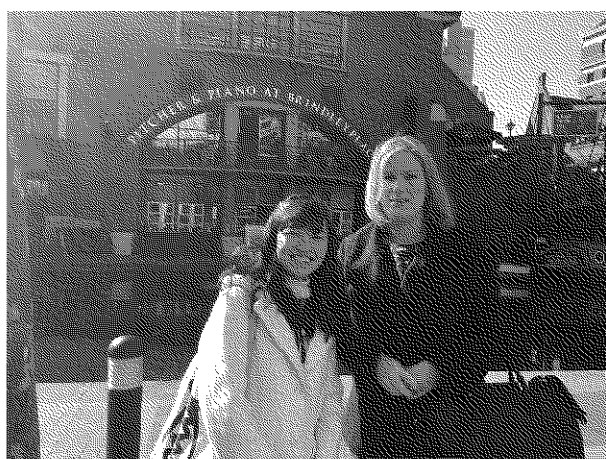
イギリス出発の朝はあまりにも衝撃的なものでした。中部国際空港にて見慣れた顔が揃い、「楽しみだね。」と友達と声を弾ませ、二週間分の荷物が入ったスーツケースを引いていると、変更点があると告げられました。それはホストファミリーの変更でした。私はりなという大谷高校の友達と同じホストファミリーで、そのホストファミリーとはずいぶん前からメールでの連絡を取り合っていました。りなどはホームステイ先にてこういうことをしようと計画を立てたり、お土産を一緒に考えたりとずっと楽しみにしてきました。まさかそのホストファミリーの変更が私とは知らずに。こうして私の衝撃的な幕開けから私のイギリス派遣が始まりました。最初は茫然としていた私もふつつつと怒りを感じました。「りなとせっかく計画を練ったのに。」「お土産だって元のホストファミリーの人数分しか買ってないのに。」「ホストファミリーとあんなに連絡をとりあっていたのに。」チケットの発行に並ぶ間、私は静かに涙を流しました。それでも何とか飛行機に乗り、到着するころには幾分か吹っ切れていたように感じます。新しいホストファミリーにもまたメールを送りました。



イギリスに到着するとすぐに BSDC にバスで向かいました。はじめての BSDC はもう夜も深く、外の様子はあまりわかりませんでした。でも校内はとても綺麗でした。カフェテリアに入るとたくさんのホストファミリーがいました。周りにいる友達も「もしかして私のホストファミリーかな？」と喜びと緊張でいっぱい顔を見せていました。飛行機にて送ったメールにまだ返信はなく、もちろん写真も見えていない私は自分のホストファミリーがどんな人なのかわかりません。「どれが私のホストファミリーなのだろうか。」私も緊張してきました。続々とホストファミリーと生徒の発表がされ、じゃあねと車に乗り込んでいく友達達を笑顔で送りました。私の名前が呼ばれる頃にはカフェテリアには、私と、付添いの先生と、BSDC の先生方しか残っていませんでした。どうやら私のホストファミリーは遅れているとのことでした。30分ほど待っても現れることはありませんでしたが。どうやら病気にかかってしまったとのことでした。こうして私のホストファミリーはまた変更されました。二度目です。

こうして私は二日間ホテルにて過ごしました。ホテルでの夜はホストファミリーに囲まれて楽しんでいるだろう他の友達のことを考えると悲しかったです。次の日は前日一緒にホストファミリーを待ってくれた副校長のサラさんとその旦那さんがバーミンガムに連れ出して

くれました。



大きなモールにてのショッピングやランチには美味しいサンドウィッチ、夜にはイギリスでは一般的なサンデーディナーに連れて行ってくれました。サンデーディナーでは定番のローストチキンを頂きました。本当に美味しかったです。サラさんは本当に優しい先生でいろんな話をしました。日本ではどういふことを勉強しているのか、部活のこと、家族のことなど、とても楽しい時間でした。前日まで落ち込んでいた私も元気を取り戻すことができました。

月曜日からは BSDC にて授業が始まりました。数日ぶりに会うみんなの姿に喜びを感じました。みんなからこんなことがあったよと話を聞き、私もはやくホストファミリーが決まらないかなと考えていました。BSDC 最初の授業は英語の授業でした。先生たちもユニークで、グループワークもどれも面白かったです。最初は不安だったイギリスのアクセントの違いもなんなくクリアできました。授業が終わると先生が、ホストファミリーが決まったことを告げてくれました。やっぱりとっても嬉しかったです。

ホストファミリーは本当に楽しい家族でした。ママもパパもお兄ちゃんもみんな働いて、忙しい家族でもありましたが。それでもママは美味しいごはんと私の大好きなチョコレートケーキをよく焼いてくれました。パパもミルクティーをよく作ってくれました。お兄ちゃんはまだ話してはくれないものの映画を薦めてくれたり、SIM カードなどを心配してくれました。なんでも自由にやっていいよという日本人の何でもやってあげるといふおもてなしスタイルとはまた違う、海外のおもてなしは本当の家族のようでお客さまという扱いは違い温かみを感じました。

BSDC の活動の中で一番楽しかったのは、調理課の生徒たちとイギリスの食文化に触れて実際に調理と試食を体験する日でした。私はサンドウィッチの調理担当になり、一対一で生徒のお兄さんと一緒にサンドウィッチを作りました。最初は手順のみを告げられて、黙々と作業に徹するのみでした。でも「チーズがなくなった。」「この包丁使っている？」など話しかけているうちにすっかり



仲良くなりました。最後にはお互い笑いながらつまみ食いをしていました。

サンドウィッチはやっぱり美味しくて、自分や友達が作ったものだと思うとなおさら美味しく感じることができました。

今回の研修にて悲しい思いをしたことは間違いありません。ただそれが悲しい思い出だけで終わらなかったのは国際課やBSDCの職員の方々、ホストファミリー、共に二週間を過ごした友達のおかげであると思います。帰国の日が近づくころには帰りたくないという気持ちが強く、強くなっていくのを感じました。本当に濃い二週間でした。

(1) 健康管理など

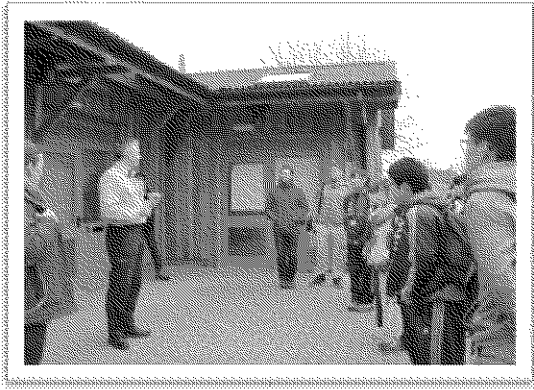
今、第2回ダービーシャー高校生派遣を無事に終えられたことに安堵しています。第1回派遣の帰国報告書で山本先生が「期間中欠席2名、早退2名、体調不良を訴えた生徒はのべ8名」と記されているのを読み、気をつけなければと思いました。今回の派遣は全員元気で全ての研修を皆勤できました。これは何よりの成功です。健康管理カードの利用については、最初は解散時に渡し、翌日の朝回収をしていましたが、その場で書く生徒が多かったため、最終的には朝、生徒に渡しその場で書かせて回収することにしました。具体的に何か書いてある生徒には声をかけるなどしました。どの生徒も多少の体調不良や時差ぼけはあっても、予定された日程をこなし、帰りのバスまで買い物やおしゃべりに興ずるなど、観察する限りうまく適応できていました。個別に食事やホームステイ先の家族の様子など聞く機会もあるとよいのですが、バスの時間や生徒同士やステイ先家族との約束などがあるようで時間の確保は難しいと感じました。

(2) バディとの交流について

生徒たちが一番楽しみにしていたことの一つは、バートン校の生徒との交流です。バディと仲よくなるように駄菓子を持参してきた生徒もいたほどです。1週目前半は外に出ることが多く、いつバディに会えるのか期待が膨らみました。

バートン校内で昼食をとるときは生徒会 Students Union の生徒たちがテーブルに加わってくれました。派遣生徒全員と話ができるように意識してくれた人もいます。派遣生徒たちと交流したのは主に専門学校課程 Further Education の生徒たちです。英国トヨタ自動車バーナストン工場見学の際にはバートン校に通いながらトヨタ自動車で実習を受けている生徒たちと昼食を食べながら交流しました。翌日は調理部門の生徒たちとサンドイッチやスコーン、ケーキを作り、サービス部門の生徒から銀器の準備やナプキンの折り方などを学んだのち、派遣団が日本の食事について発表し、共に昼食を摂りました。ロズリストンフォレストセンターでは公共部門 Public Service への就職を希望する生徒たちと野外活動を行いました。Public Service とは軍隊、警察、消防などのことを指しているそうです。堂々として大人びた彼らですが年齢を訊くと派遣団生徒より年下の場合もあって、とても驚きました。

今回、バディとなった生徒の多くが実習生 Apprentice として真剣に将来を考え、経験を積んでいる姿が印象的でした。「ここでの経験が就職できると役に立つ」と異口同音に話してくれました。反面、副教頭のサラさんは「早く将来を決めなくてはいけないのは残念でもある」と語っていました。そんな彼らと触れ合うことは派遣団の生徒たちに自分の将来を考えるきっかけを与えてくれたのではないのでしょうか。また、派遣団の生徒たちは明るく、積極的で、駄菓子を配り、写真と一緒に撮り、アドレス交換するうちにお互い急速に打ち解けました。別れを惜しむ様子を見て、英国トヨタ自動車バーナストン工場の実習生指導担当の先生も「こんなに打ち解けるのは始めてだ」とおっしゃっていました。



(3) バートン校について

バートン校は多数の教育設備を備え、幅広い年齢層と背景の人々に対応しています。子連れの学生のためにオムツ換えスペースもありました。日本でこれだけの設備を提供できる学校はなかなかありません。ロズリストンフォレストセンターもバートン校の所有ではありませんが、毎週月曜日生徒は実習をしているそうです。ここはかつて炭鉱で、次に養豚場となり、20年前に植林をして再森林化を図っています。

しかし残念ながら、一部の研修日程では担当者間で十分に話し合いがなされていないようで、研修の終了時刻が予定より遅れるなどが複数回ありました。バートンからの最終バスが比較的早いので帰りのバスを心配しました。バートン校の担当者にしっかり確認してもらうか、こちらでその日の研修担当者に確認することでこのようなことは回避できると思われま

(4) 英国トヨタ自動車バーナストン工場見学について

日本から赴任している従業員の方からも挨拶を受けました。トヨタ自動車はバーナストンで開業して25年たちます。Toyota Wayを理解してもらうべく、バートン校の実習生はじめ、中小工場からの研修生 SME (Small Medium Employee) Apprentices や派遣会社 Blue Arrow からも期間従業員を受け入れています。イギリスの平均勤続年数は4,5年だそうです。トヨタ自動車は勤続年数が長く、創業時から従業員もたくさんいると現地採用の日本人女性から伺いました。環境への取り組みとしては、敷地に太陽光発電のパネルを設置しているが、緑を守るために周囲に大きな木も残しているそうです。工場が休みの土日は地域に電気を送っています。環境活動に参加してスタンプを集めると景品をもらえるなどの取り組みを紹介していただきました。午後はカートに乗って工場見学をしました。ライントレーサが走り回っていて、かつて勤務した豊田工業高校の生徒たちが取り組んでいたものは現場ではこのように活用されるのだとわかりました。伝説の「姿置き」は1つしか見ませんでした。どこも整理整頓され、Quality Control のコーナーも至る所にありました。生徒たちもとても関心を持っていました。

(5) その他

A 英語

「丘陵のようにうねった」と評される当地の英語のイントネーションは英語のリスニングをが

んばっている生徒にも耳新しかったのではないのでしょうか。比較的女性の方がわかりやすく話していただけるような気がしました。各見学場所のガイドの英語が少しでもわかるように、その場所について事前の学習をするとよいと思います。様々な文化が混じりあっているので英語も多様性が著しいようです。

B サバイバル&トラブル

ステイ先ではないはずの次男がしばしば部屋に出入りしていたのには困惑しました。洗濯をすれば、洗濯機の脱水が機能せず洗濯物を手で絞ったこともあります。最終日早朝、家中の電灯が点かないのでキーホルダー兼懐中電灯で荷物の最終確認をし、冷蔵庫の庫内灯で朝食の準備をしました。朝5時からタクシーを待ちましたが、私のことを拾い忘れてしまったようです。さらに悪いことに、私は飛行機にコート置き忘れてしまいました。成田国際空港では乗り継ぎ便を8時間待った後、さらに出発が1時間遅れました。

派遣を終えて

中村 アレクサンダー 亮二 (引率教諭)

今回、第2回ダービーシャー高校生派遣事業に携わりとても貴重な経験となりました。私は、英語の教員ではなく理科の教員です。ですので本来ならまず声がかかることもなかったのかもしれませんが、声をかけてくださった本校の校長、相談をした時に「めったにできない経験だから行ってきたら」と送り出してくれた妻に感謝の気持ちでいっぱいです。おかげでとても充実した2週間を送ることができました。

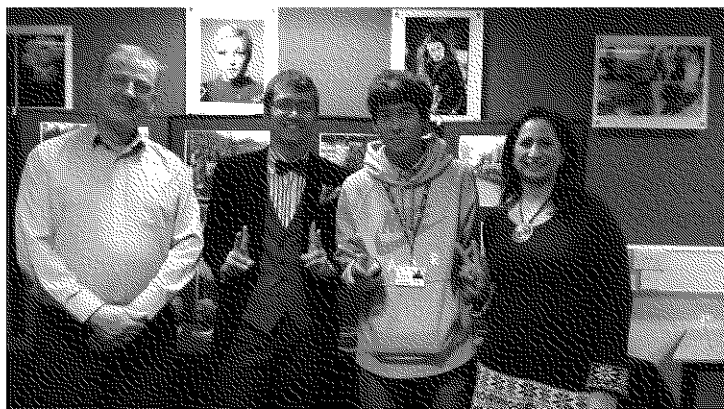
3月12日にアムステルダム経由でイギリスのバーミンガム空港に降り立ち、まず感じたことはイギリスの寒さでした。その頃日本は日中12度を越す暖かい日が続いていたようですが、イギリスは日本の冬の寒さと言っても良い寒さでした。滞在していた2週間の間、基本的にこの寒さが続いていました。空港に降り立ち日本とは様子の違う風景を見て、とうとうイギリスに来たんだなという実感が湧いてきました。バスに乗ってBSDCに向かいホストファミリーと対面して生徒たちはそれぞれの家に向かいました。引率のいない中で英語でコミュニケーションを図らなければならなかったことは生徒にとって不安な面をたくさんあったでしょうが、生徒たちはその中でもよくやっていたと思います。

3月14日からBSDCでのプログラムが始まりました。英語の講義をはじめ、街中の散策や歴史・文化に触れることで日本との違いを認識し、BSDC内での料理やアートプログラムでは、BSDCの生徒たちと積極的にコミュニケーションを図ることで自身の英語の向上の一助になったのではないかと思います。ただ、イギリスでの英語はスピードが速いこともあってなかなかリスニングに苦戦をしていたようです。これから英語に普段から積極的に接していくことで聞く力も身につ



けて海外も視野に頑張っていてほしいです。

最終日のカルチャーショーでは、どのグループも自信をもって発表に臨むことができたと思います。プレゼンテーションから劇・踊りまで発表の内容は様々でしたが、しっかり準備をしてお



り、ホストファミリーや BSDC の先生、生徒の前で堂々と振る舞っていました。最後に Dawn Ward 校長からショーの講評を頂き、議長より一人一人に認定証を渡して頂きました。

この2週間の派遣を通して、生徒は様々なことを学ぶことができたと思います。英語でコミュニケーションをとることの難しさ、イギリスと日本との違い、外に出ることではわからない日本の素晴らしさ、イギリスの素晴らしさ、様々なものに触れることができたことは生徒にとって



必ずプラスにはたらくことと思います。こういった経験をもとに日本にとどまらず世界に目を向けていくこと、一層の活躍をしてくれるものと期待しています。

今回の派遣に当初から研修で関わってくれた講師の Ed、Karen、Carl、準備から出発そして到着までの面倒を見てくださった吉野さん、現地でお世話をしてくれた都築さん、BSDC の先生や生徒達、ホストファミリーなど様々な人のサポートがあってこそ今回の成功だと思います。帰国直前にベルギーでのテロがあったため、心配していましたが特に問題もなく帰国できたことは本当に嬉しく思います（イギリスの空港ではやはり厳戒態勢が敷かれていました）。改善点等もあるとは思いますが、この研修がこの先も続き、生徒達の成長の糧となることを願っております。

豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料

- 1 姉妹都市名 イギリス ダービーシャー3地域
(ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市)
- 2 提携年月日 平成10年(1998年)11月16日
- 3 提携目的 両国民が真の友情を育むことを念願し、互いに協力し合い、融和を促し、相互の文化理解を深めることを目的とする。

4 中学生交換派遣事業

| 年 | 学生 | 団長 | 副団長 | 引率教諭 | 計 |
|--------------|-----|----|-----|------|-----|
| 平成13年(2001年) | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成14年(2002年) | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成15年(2003年) | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成16年(2004年) | 20 | 1 | 1 | 1 | 23 |
| 平成17年(2005年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成18年(2006年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成19年(2007年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成20年(2008年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成21年(2009年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成22年(2010年) | 26 | 1 | 1 | 1 | 29 |
| 平成23年(2011年) | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成24年(2012年) | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成25年(2013年) | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成26年(2014年) | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 平成27年(2015年) | 27 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 計 | 371 | 15 | 15 | 15 | 416 |

5 訪問団の交流

| | 年 | 内 容 |
|-------------|------------------|---|
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 11 年 (1999 年) | ダービーシャー青少年吹奏楽団 63 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また 2 月 17 日には姉妹都市提携記念碑除幕式を行う。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 13 年 (2001 年) | 第 1 回ダービーシャー県等親善訪問 (25 名) 平成 13 年 6 月に完成する豊田スタジアムに因んで、サッカー関係者が姉妹都市を親善訪問。現地チームとの親善試合、英国プレミアリーグ地元チームの試合観戦等を通して交流を行う。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 14 年 (2002 年) | 第 2 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (22 名) 現地アマチュアカメラマンとの交流を通じて、写真撮影を行う。帰国後は、松坂屋 T-FACES 階サンシャインホールでの写真展を始め、市内各交流館を循環し写真展を行ない、市民にダービーシャー県等を紹介する。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 15 年 (2003 年) | 第 3 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (23 名) ガーデニングをテーマに、ダービーシャー県等を親善訪問。個人庭園や公共施設の花飾りを視察し、豊田市のまちづくりに活かす。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 16 年 (2004 年) | 豊田文化使節団 (日本文化を紹介する伝統芸能 (邦楽・民謡・三曲等) による演奏集団 (38 名)) を結成、演奏会やワークショップ等を通じて姉妹都市との市民レベルの交流を深め、文化による国際親善に寄与する。あわせて、豊田市における文化レベルアップを図り、2005 年「愛・地球博」を広くアピールする。 |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 17 年 (2005 年) | ダービーシャー青少年ジャズオーケストラ 30 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また万博英国ナショナルデーの 4 月 22 日には、万博会場にて公演を行う。 |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 20 年 (2008 年) | 姉妹都市提携 10 周年を記念してダービーシャー県からのアーティスト (コンテンポラリー・ダンサー) 及び青少年合唱団 (27 名) を受入。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 20 年 (2008 年) | 姉妹都市提携 10 周年を記念して豊田市からアーティスト (三味線演奏者)、ジュニアオーケストラ (42 名) 及び市民文化使節団 (37 名) を派遣。姉妹都市提携 10 周年を記念して鈴木市長がダービーシャー県等を訪問。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 25 年 (2013 年) | 豊田市少年少女合唱団の派遣 (56 名)、豊田市ダービーシャー公式訪問団の派遣 (10 名)、 |

| | | |
|-------------|------------------|---|
| | | ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。 |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 25 年 (2013 年) | 「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展とダービーシャーからの参加団 (6 名) 受入。また、ダービーシャー青少年吹奏楽団 (52 名)、ダービーシャー公式訪問団 (9 名) を受入。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 26 年 (2014 年) | ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。 |

6 その他

| | 年 | 内 容 |
|-------------|------------------|--|
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 13 年 (2001 年) | 鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (今後の姉妹都市交流のあり方に関する協議) |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 14 年 (2002 年) | 鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (ダービー特別市市制 25 周年記念式典への出席) |
| - | 平成 14 年 (2002 年) | 英国大使館の植林活動「日英グリーン同盟」への参加表明のため、イングリッシュオークの植樹を実施。 |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 17 年 (2005 年) | ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市、フロントシャー市の各事務総長と英国トヨタ自動車(株)のスタッフが来豊。(本市との文化交流について協議) |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 19 年 (2007 年) | ダービーシャー県議員デイブ・ウィルコックス氏、姉妹都市担当ステファニー・ウォルシュ氏来豊 (2008 年 (平成 20 年) の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ) |
| ダービーシャー→豊田市 | 平成 20 年 (2008 年) | 南ダービーシャー市議長マイケル・バイル氏夫妻来豊 (2008 年 (平成 20 年) の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ) |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 24 年 (2012 年) | 太田市長ダービーシャーを訪問。 (2013 年 (平成 25 年) 姉妹都市提携 15 周年記念事業打合せ) |
| - | 平成 25 年 (2013 年) | 姉妹都市提携 15 周年記念式典を豊田市能楽堂にて開催。また、姉妹都市提携 15 周年を記念して、豊田市とダービーシャーの中学生が、1 つのテーマについて共に考え、意見交換を行う「豊田・ダービーシャー子ども会議」を開催。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 26 年 (2014 年) | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |
| 豊田市→ダービーシャー | 平成 27 年 (2015 年) | ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。 |

Golden Days Abroad in Derbyshire

～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～ 2015

第2回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書

●編集・発行 豊田市 経営戦略室 国際まちづくり推進課

〒471-8501 豊田市西町 3-60 TEL0565-34-6963

e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp